⑴　トータルブランディング方針について
別添資料

令和６年２月９日　データ活用部会（想定）

令和６年１月２５日時点案

熊谷スマートシティ
トータルブランディング方針
Ver.2.0

熊谷市が行うスマートシティ政策の
ブランドアイデンティティの統一に向けて

目次

１．熊谷スマートシティのブランドアイデンティティ、デザインルールと
　　政策企画方針（コンセプト）について・・・・・・・・・・・・・・・・ｐ３
２．熊谷スマートシティの政策の構造（宣言、実行計画との関係等）・・ｐ４
３．デザインルールの構成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ｐ５
　【１】やさしい未来発見に向けた３つの好循環・・・・・・・・・・・・・・ｐ６
　【２】ビジュアルの統一について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ｐ12
　【３】スマートシティ関係部局を中心にした熊谷市版ITスキルの整理と普及・・ｐ18
　【４】熊谷スマートシティにおける「暑い」に類する表現の用い方について・・ｐ20
４．政策企画方針（コンセプト）の構成・・・・・・・・・・・・・・・・ｐ21
　【１】熊谷スマートシティの重視ポイントと基礎的な構成要素・・・・・・・・ｐ22
　【２】ＤＸアイデア・事業創造の流れ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ｐ27
　【３】ウェルビーイング指標の政策検討への活用（EBPM）・・・・・・・・・ｐ29
　【４】コモンデータ・Webコモンスペースの考え方による公民連携のデータ活用・ｐ33
参考資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ｐ36

１．熊谷スマートシティのブランドアイデンティティ、デザインルールと政策企画方針（コンセプト）について

〇熊谷スマートシティはスマートシティ宣言（令和５年７月）に沿って持続的な価値（ブランド）を確保するため、ビジュアル等を含むデザインルールと政策企画方針（コンセプト）の統合的な提示に取組みます。これにより、市民・来訪者が利便性の高いシステムになじみやすい状況を目指すとともに、各システムの関係者が、スマートシティの全体像を思い浮かべつつ、開発・運用改善等に取り組める環境づくりを目指します。

〇デザインの語源は「設計」であると言われており（注）、デザインルールに沿ってビジュアルの加工、情報発信等に関する専門性が発揮されることと、一定の企画方針（コンセプト）に沿って政策が企画されることは一体的であるべきと考えられます。**ビジュアル等を含むデザインの提案とコンセプトに沿って企画を立案する政策担当者の応酬等のプロセスが適切に行われることで、市民の生活を支えていく、熊谷スマートシティの価値（ブランド）が持続的となる**ことを意識して業務に取組みます。

　具体的には、ビジュアル等の加工、情報発信に関する専門性を有する関係者などに常に適切な情報提供を行いつつ、政策担当者同士・関係者同士が広い視野から、関連する政策を含めた全体像の構想・設計に取り組めるよう、ネットワークの形成、スケジュール確保に努めます。

〇なお、デザインルールと政策企画方針（コンセプト）は、その時点での解に過ぎず、市民の多様性、変わりゆく地域社会に向けて常に変わり続ける必要があるとの認識の下で、新しい知見や、市民・地域社会の変化へ対応した生きたデザインルール、政策企画方針（コンセプト）のあり方を考え続けます。

（注）デザインという言葉の語源はラテン語の「Designare」にあるといわれています。Designareは「計画を記号に表す」つまり図面に書き表すという意味であったといわれています。これを踏まえると、当初デザインという言葉は「設計」という意味で用いられていたことが想像できます。（出典：公益財団法人日本デザイン振興会Webサイトより）

２．熊谷スマートシティ政策の構造（宣言、実行計画との関係等）

〇スマートシティ宣言（令和5年）に示された理念に沿って、スマートシティ関連政策の検討・実装に取り組むために、本「熊谷スマートシティトータルブランディング方針」（以下「本方針」）を設定します。

〇本方針は、ビジュアル等を含むデザインルールと政策企画方針（コンセプト）から構成されます。ルール、コンセプトの一部がガイドライン等として切り出されている場合には、その関係性を本方針に示すものとします。

〇また、本方針に沿って検討、実装に向かう具体の計画については、「熊谷スマートシティ実行計画」（以下「実行計画」）に記載するものとします。

〇本方針（ルール、コンセプト）及び関係ガイドライン等は市民・来訪者の共感や具体の参画を得て熊谷スマートシティの持続的な価値（ブランド）につなげる目的のため公表します。

- SSID（スマートフォン サービス インターフェイス デザイン）ガイドライン
  →サービスに**共通する仕様等（の意図）への共感を目指す。**
- 熊谷スマートシティスキルカタログ
  →サービスの開発や運用を支える**スタッフ・組織の姿勢や意識等への共感を目指す。**
- デジタルデザインルートマップ（検討中）
  →社会・地域が成長・変化していくストーリーへの共感及び具体の参画を目指す。
- 市民参加型のWebGISの活用の手引き
  →デジタルツールを共有してのまちづくり協働への**共感及び具体の参画を目指す。**

参考３７ 参考３８ 参考３９

３．デザインルールの構成

【１】やさしい未来発見に向けた３つの好循環

持続可能なエコシステム　→　地域の未来発見
成長サイクル　→　生活の未来発見
データ活用サイクル　→　人材の未来発見

【２】ビジュアルの統一について

（関係ガイドライン等）
SSID（スマートフォン サービス インターフェイス デザイン）ガイドライン

【３】スマートシティ関係部局を中心にした熊谷市版ITスキルの整理と普及

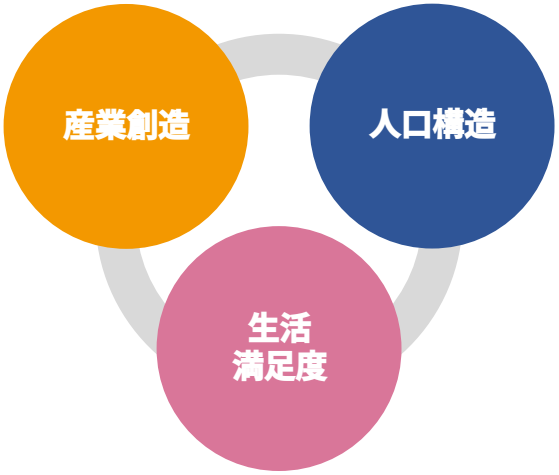
（関連ガイドライン等）熊谷スマートシティスキルカタログ

【４】「暑い」に類する表現の用い方について

【デザイン１】やさしい未来発見に向けた３つの好循環

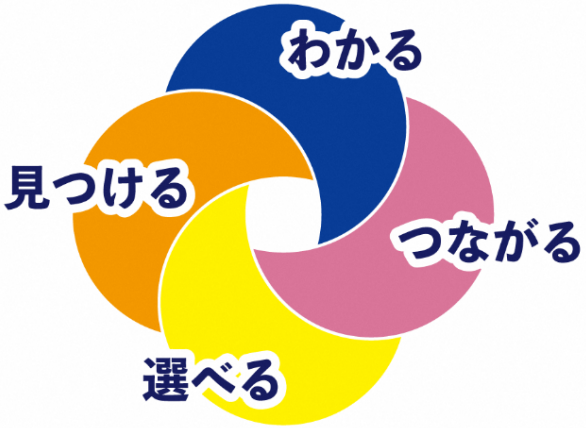
熊谷市では持続性のある地域を目指し、スマートシティの政策を実施。
熊谷スマートシティは様々な人が関わりながら、以下３つのサイクルを回すことによって、ウェルビーイングや、データ活用、産業DXの好循環をつくっていく。

熊谷市の目指す持続可能な地域をつくるエコシステム



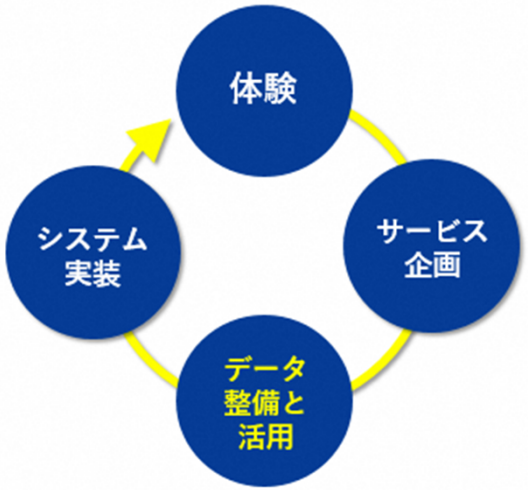
（地域の未来発見）

やさしい未来発見都市の成長サイクル



（生活の未来発見）

熊谷市の目指すデータ活用サイクル



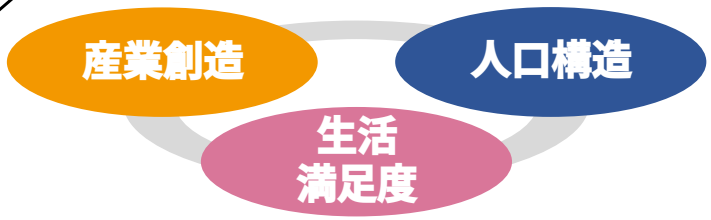
（人材の未来発見）

■３つの好循環の関係性

「幸福度の高いまち」の持続のためには以下の「地域の未来」「生活の未来」「人材の未来」の３つのレイヤの好循環が必要

目指す内容のキーワード

持続可能な地域を作る構想（DX・公民連携の視点からのエコシステムづくりに取組み）



地域の未来

誇り・持続性
関係人口

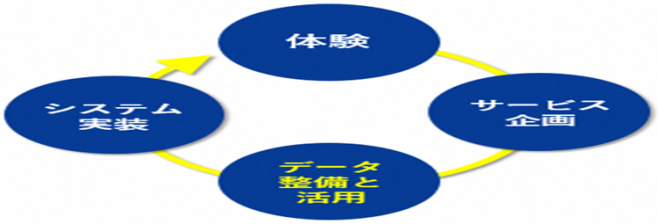
市民が自律的に満足度を向上させられるサイクル（→主に満足度）



生活の未来

成長（対象分野の拡大・内容の充実）
→満足度

システム・データのPDCAサイクル



人材の未来

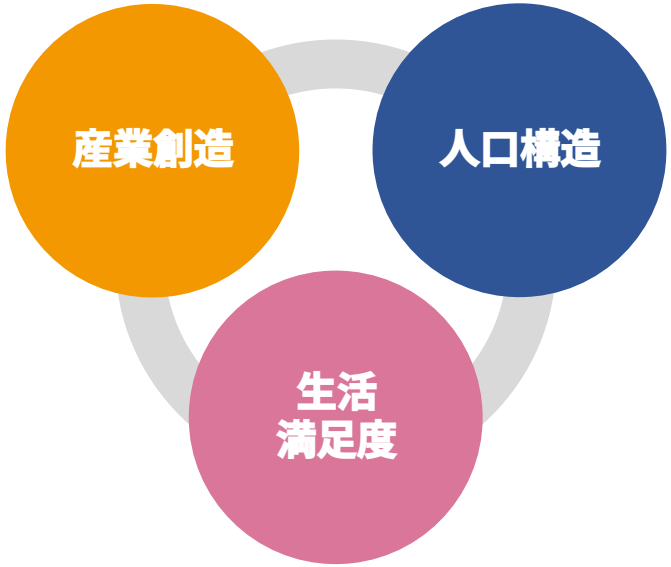
市民参画
・改善
(人材育成)

熊谷市の目指す持続可能な地域をつくるエコシステム

（産業ＤＸに係る未来発見・地域づくり構想）

産業ＤＸや公民連携により、産業を創造し、生活満足度を高め、人口構造を変えていくシステム

　システムから得られるデータの活用や、事業者、大学との連携などの公民連携の取り組みなどから新たな産業の創造を目指す。
　また、データを分析し市民ニーズに即した施策を行うことで生活満足度を高め、関係人口を含めた人口増加、転出抑制を図ることで、市民はもとより市外のファンも誇りに思える持続可能な地域づくりを行う。



新たな事業が生まれ、生活の満足度が上がり、人口が増える
『地域の未来』をつくる

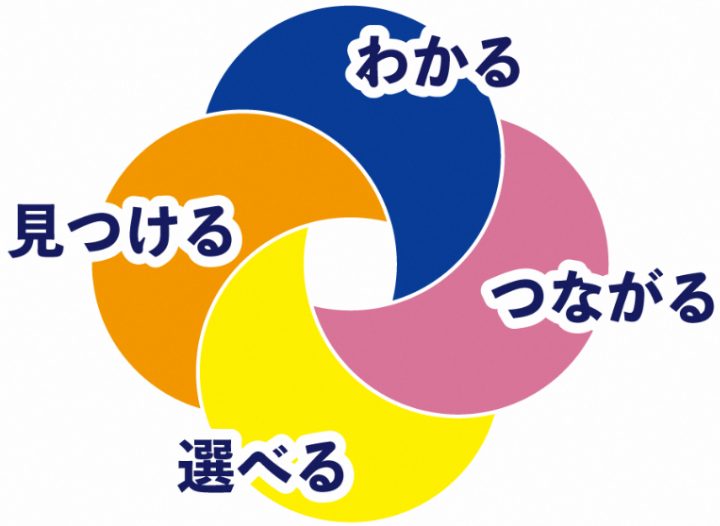
やさしい未来発見都市の成長サイクル

（ウェルビーイングに係る未来発見）

熊谷スマートシティの仕組みにより、新たな使い方、自分なりの楽しみ、自律的な幸せを見つけるための循環

「わかる」「つながる」「選べる」「見つける」という循環をつくることでの**「発見」**にから始まる満足度の向上を念頭に、市民サービス全般の向上に取り組む。

まちづくりに参画し、地域への愛着を育むことや、自己実現の機会を通して、個人の幸せを追い求める循環する環境をつくり、やさしい未来につなげることを目指す。



『幸福度の高いまち』へ

熊谷市の目指すデータ活用サイクル

（データ活用に係る未来発見）

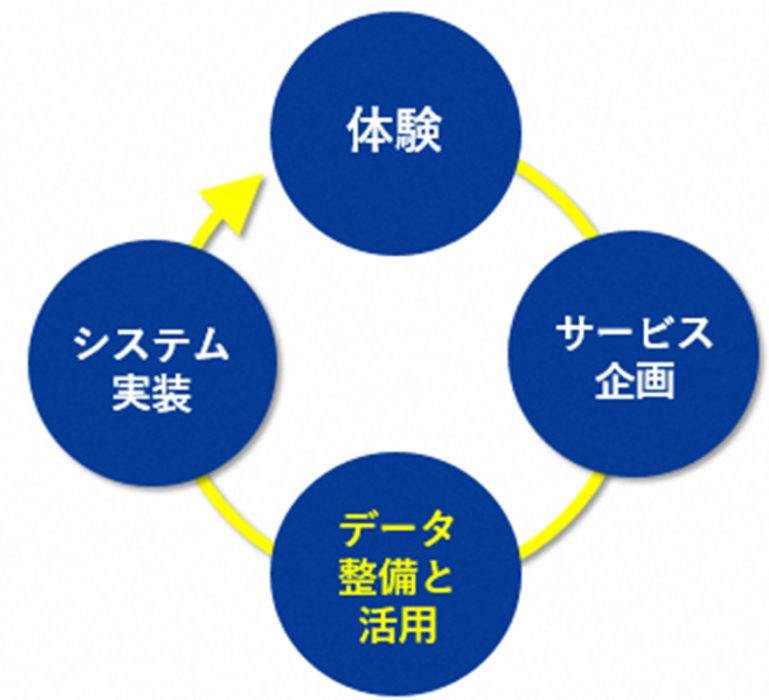
システムとデータによる好循環

システムから得られるデータを蓄積・分析・更新し、次の施策に生かすことが「持続可能なまち」を実現するための仕組みです。

市民目線のデータ整備（市民が活用しやすいデータ整備）

コミュニティバスの位置情報など行政が提供できるデータはもちろん、市民と協働で作るバリアフリー情報などのデータを整備することで、データ活用サイクルを回していきます。

また、これらのデータは地元大学の研究や新たなサービスに活かします。



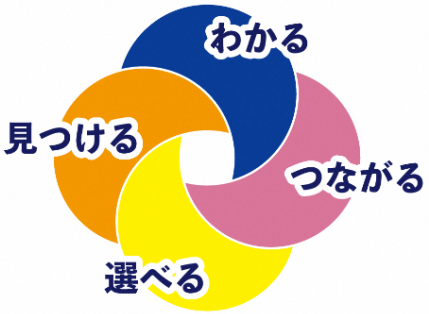
新たな発見やサービス、事業が生まれる
『データの循環』をつくる

■ 成長サイクルとスマートシティ宣言の関連



- 熊谷スマートシティとしてのキーワード『やさしい未来発見都市』『デジタルと人の力で、社会を前に進めていく』は、スマートシティをプロモーションしていくうえでのキーワードとして設定。
- 『発見』のワードは、熊谷市がスマートシティ政策によってつくる循環の実現によって得られるものであるため、スマートシティ政策における統一的な概念として設定。

- 宣言では「人の力」を宣言文に含むことから、『えらべる』『つくりだせる』『つながる』『わかりあう』というワードを使用したが、熊谷スマートシティにおいては、シンポジウムで使用した、『わかる』『つながる』『選べる』『見つける』のワードをプロモーションのメインとして使用。



- シンポジウムで使用したワードと、その循環を表現したロゴを作成し、熊谷スマートシティのロゴとしてプロモーションに活用。

【色について】
わかる　：スマートシティの入口、クマぶらブルー
つながる：ハート、人とのつながり、クマポピンク
選べる　：使い方を選べる、クマPAYイエロー
見つける：新しいデータやサービスを見つける、熊谷市シンボルカラーオレンジ（ひばり色）

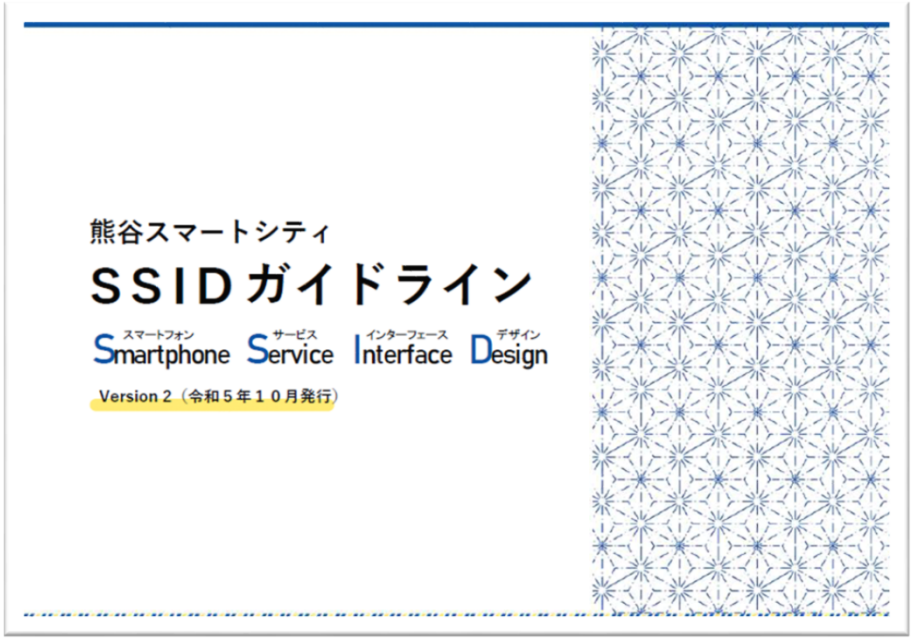
参考４０　参考４１

【デザイン２】ビジュアルの統一について

SSIDガイドラインの策定（スマートフォン サービス インターフェイス デザイン）

ユーザーのタッチポイントとなるスマートフォンで、熊谷スマートシティの「ブランドとしての統一感」をつくるため、SSIDガイドラインを策定した。ガイドラインには以下の内容が掲載されている。

- **キャラクター指定（スクマムの使用）**
- **色彩指定**
- **基準となるスマートフォン、ボタンサイズ等システムの仕様**



SSIDはブランドとしての統一感の他、アクセシビリティに配慮した「見やすいデザイン」にも言及している。

■ スクマムデザイン等の活用について

スクマム（熊谷スマートシティオリジナルデザイン）

以下のとおり、熊谷スマートシティ及び関連事業のキービジュアルに、スクマムを使用している。これらのデザインはスマートシティとしてのブランドを損なうことないよう取り扱いに注意しながらも、プロモーションとして幅広く活用していく。

熊谷スマートシティのシンボルロゴ

「やさしい未来発見都市の成長サイクル」を表現したイメージをロゴとして、熊谷スマートシティのシンボルロゴとして使用する。

KUMAGAYA SMARTCITY

シンボルロゴ×キーワード

シンボルロゴを抱えるスクマムと、熊谷スマートシティのキーワードである「やさしい未来発見都市」合わせたビジュアル。スマートシティ宣言で使用する。

やさしい未来　発見都市 熊谷

サービスおよび事業ロゴ

「クマぶら」と「地域通貨」に関連するロゴ。これらのロゴはスクマムのデザイナーにデザインを発注し、事業全体ブランディングについてアドバイスをもらいながら進める。

KUMABURA クマガヤ知るなら クマぶら　クマPAY　クマポ

■ 熊谷スマートシティ関連の印刷物への表示の統一

以下のとおり、熊谷スマートシティ関連の印刷物への表示を統一的に入れ、市民等への浸透を図る。

1　目的

スマートシテイプロモーション及びブランディングの一環として、スマートシテイ関連の印刷物や資料等に統一的にスマートシティのデザインを入れることにより、市民等の目に触れる機会を増やし、市のスマートシテイの認知度を高め、取組みへの理解を深めていただく。

チラシへの掲載例



2　デザイン

パターン１を推奨するが、スペース等の都合により、パターン２も可。大きさは任意とする。

パターン1（推奨）

熊谷市はスマートシティの取組みを進めています。
この事業はスマートシティ関連事業です。

パターン２

KUMAGAYA SMARTCITY

■ 「クマぶら」のデザインについて

全てのサービスの入口である「クマぶら」においても、熊谷スマートシティのブランディングを意識し、統一的な考え方でワードを設定。

新たに設定された「クマぶら」のキャッチコピーとその意味について

キャッチコピー	クマガヤ知るなら「クマぶら」

コンセプト

まちの情報を「知る」ことはもちろん、それらのサービスや事業を通して、自分自身の興味関心も知ることができる。

全てのサービスの入口である「クマぶら」を通して、新たな使い方、自分なりの楽しみ、自律的な幸せを発見する。



そのうえで、「クマぶら」のリニューアルにおいては、「使いたいメニューを探しやすくする」ことを第一として、新たに以下3つのキーワードをリッチメニューのタブとして設定した。

知る　**使う**　**楽しむ**

参考４２

■ 熊谷スマートシティ関連施策の範囲について（１）

（※）スマートシティ政策を実施する上での環境整備として実施しているデジタルデバイド解消のための事業（公共施設のWi-Fi整備や高齢者スマホ貸与事業、スマホ使い方講座など）もスマート政策の一部として、スマートシティのプロモーションに含める。

クマぶら
・スマートシティの入口
・地域通貨（クマＰＡＹ、クマポ）
・スタンプラリー事業
・熊谷名物、ショップなど

クマＰＡＹ
・市内加盟店でお買い物に使える地域電子マネー

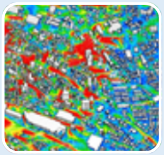
クマポ
・共助等の感謝の気持ちを贈り合えるコミュニティポイント



コミュニティバスのスマホ回数券
・地域電子通貨で回数券の購入
・遅延情報の配信、
・乗車データの取得



デジタルデバイドの解消
・公共施設のWi-FI設置事業
・スマホ貸与事業
・スマホ使い方講座



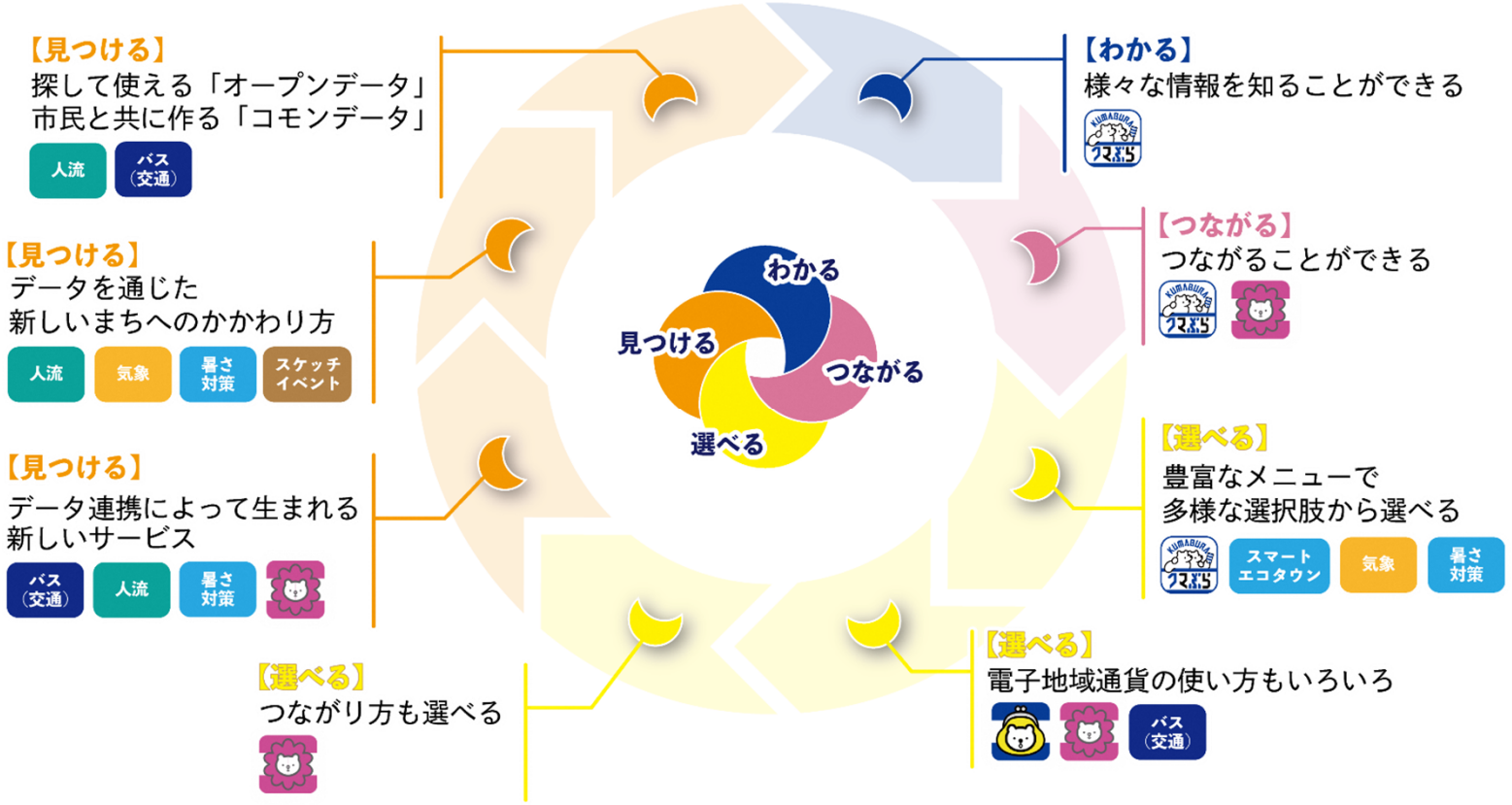
暑さ対策デジタル連携
・暑さ対策スマートパッケージ
・スマートエコタウン



データ活用まちづくり
・人流データ（交通手段及び人の動き）のデータの分析
・ビッグデータの活用

■ 熊谷スマートシティ関連施策の範囲について（2）

「やさしい未来発見都市の成長サイクル」の循環図に配置されるそれぞれの事業を「スマートシティ施策」として位置づけ、本方針を適用するものとする。



※　上記事業の他、スマートシティ政策を実施する上での環境整備として実施しているデジタルデバイド解消のための事業（公共施設のWi-Fi整備や高齢者スマホ貸与事業、スマホ講座など）もスマート政策の一部として、スマートシティのプロモーションに含めることとする。

【デザイン３】スマートシティ関係部局を中心にした熊谷市版ITスキルの整理と普及

〇システム実装委員会（熊谷市DX推進本部スマートシティ戦略部会）において、スマートシティの推進に必要なITスキル等を、データ活用の実装等に向けたプロセスも念頭に「熊谷スマートシティスキルカタログ」として整理。
・その他、必要に応じて、随時、適切な会議体において、自治体DXに必要なITスキル等を定義する。

〇複数の部署で役立てることが可能な（ポータブルな）スキルとすべく、各職員が職位に応じた習得目標を上位職に相談し、必要な業務経験を積める環境を確保する。

【注】「ITスキル」（熊谷市役所における定義）
・一般的な業務の基礎となるITリテラシーや汎用的なスケジュールの自己管理などの基礎的なノウハウとは別途、スマートシティに関係するシステムやデータの設計・実装・運用等に関わる上での基本的な考え方をスキルとして整理する。今後の自治体DX・スマートシティの取組みに際して各課で必要となるため、計画的に経験・習得することが望ましいノウハウ等を指す。

参考４３

■持続サイクルの上で必要な９つのスキル（随時更新）



① スマートシティにおいて**【目指すべき価値の調整・共有】**を行うスキル
② 必要な**【オープンガバナンスの場を設定】**し、得られた**【アイデアやどのような役割が必要かについての整理】**を行うスキル
③ 既存のシステムやデータを見渡し、**【どうすれば実現できるかを考える】**スキル
④ 実現のための仮説を、**【（必要なベンダー・有識者等の協力 を得て）実行可能な内容に落とし込む】**スキル
⑤ **【関係者と業務全体の要件・リスクを定義】**し、**【期間内に業務の成果が得られるようにマネジメント】**するスキル
⑥ **【個別のタスクの期限と要件の兼ね合いを管理】**し、同時並行的に業務手法を改善したり、段取り管理の中間目標を設定するスキル
⑦ 政策のPDCA、EBPM等に**【どのようなデータが必要かを考え、取得方法や分析・活用手法を整理】**するスキル（市役所・大学等の政策企画関係者向けを想定）
⑧ **【データを用い、まちづくり等の課題をステークホルダーに伝えて 理解を促す】**と共に、**【将来像や解決策の立案にステークホルダーを巻き込んで公民連携のまちづくりを促進】**するスキル
⑨ 民間も含めた熊谷スマートシティの好循環のために**【地域（市役所内を含む）に必要なDX人材像・スキルを整理し育成手法を検討】**するスキル

【デザイン４】熊谷スマートシティにおける「暑い」に類する表現の用い方について

【当面の方針】
「日本一アツい」について、以下の要件を満たすPRについて、限定的に活用。

［要件］
・短期（おおよそ３年以内）での目的・目標設定を持つこと。また、取組みの段取り等が具体的に設定されていること。
・当該表現を情報発信に用いることにより、どのような対象に募集等の情報が伝わりやすくなることを目指すべきかやそのメリットが、具体的に説明可能であること。

（※）その他の場合には、以下のいずれかの使用を想定。
『暑さ』で知られる熊谷市
『暑い』熊谷市
『暑さ対策日本一』熊谷市

４．政策企画方針（コンセプト）の構成

【１】熊谷スマートシティの重視ポイントと基礎的な構成要素

・コミュニティ
・持続性
・（まち、ひとの）ストーリー

【２】ＤＸアイデア・事業創造の流れ（関係ガイドライン等）

（仮）デジタルデザインルートマップ（検討中）

【３】ウェルビーイング指標の政策検討への活用（EBPM）

【４】コモンデータ・Webコモンスペースの考え方による公民連携のデータ活用

（関係ガイドライン等）
（熊谷スマートシティ版）市民参加型のWebGISの活用に向けた取組みの手引き

【コンセプト１】熊谷スマートシティの重視ポイントと基礎的な構成要素

【1】以下３点を重視しつつ、**<u>各種の仕組みが好循環を生むエコシステム</u>**の**<u>効率的な構築</u>**を目指す。

- **コミュニティ**
- **持続性**
- **（まち・ひとの）ストーリー**

【2】上記観点を反映した基礎的な構成要素

〇コミュニティポイントの活用

（※）他都市の同種の非換金ポイントの多くは商業振興を目的とするが、
熊谷市では市民同士の「わたす」機能によるコミュニティ活性化を重視

〇市民・来訪者の共感を目指すブランディング

～スマートシティ宣言（デジタルと人の力で社会を前に進める）
～アクセシビリティとデザイン性の両立を目指すデザインルール

〇【ストーリー１】スマートクールシティへの市民参画
〇【ストーリー２】データ活用によるまちなかウェルカム、コンパクト×スマートシティの取組み

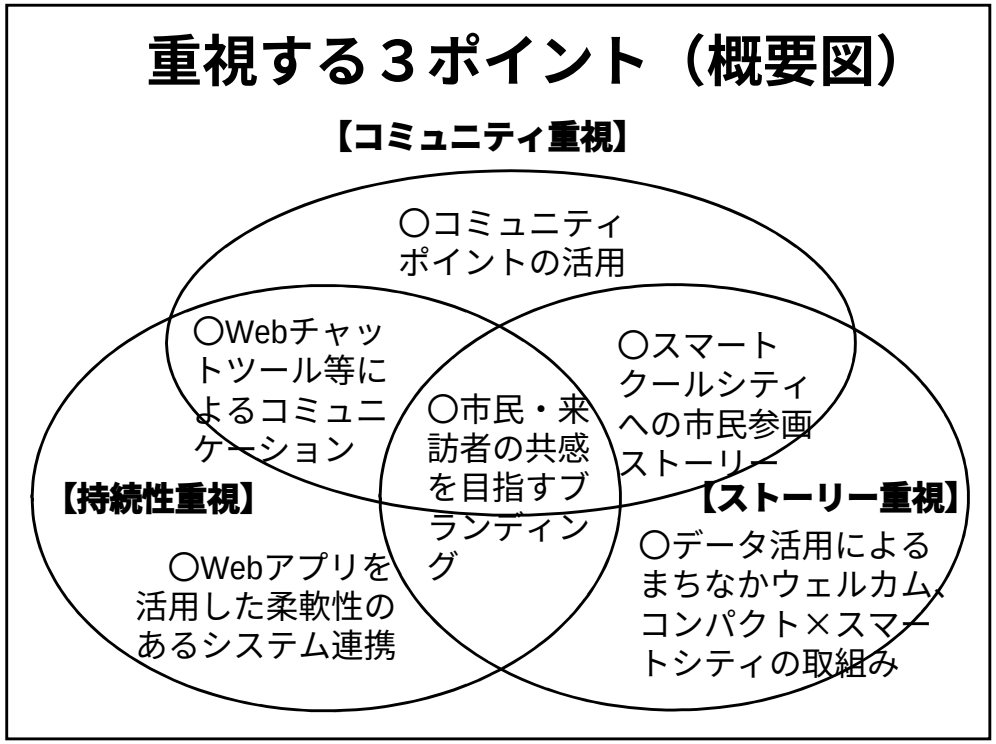
～人流等のデータ活用による市民・来訪者・店舗等のWin-Winの仕組み構築
～産学官の連携したデジタル・デザインのルート設定
～参画を支えるツール（WebGIS・気象シミュレーション）
～スマートシティのための独自のスキル設定と人材育成

〇Webチャットツール等によるコミュニケーション

～コミュニティポイントを支えるマッチングアプリ
～WebGISでのまちづくり、（仮）コミュニティラボを支えるチャットアプリ
（～官民連携の取組みを支えるビジネスチャット）

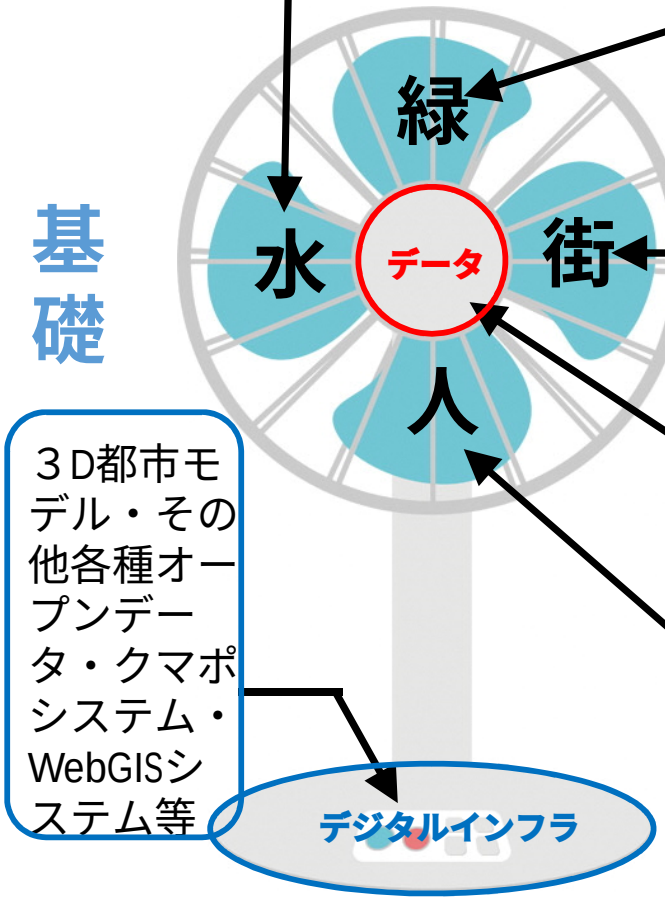
〇Webアプリを活用した柔軟性のあるシステム連携

～LINEベースのポータル（クマぶら）の他は、原則としてWebアプリ同士のID連携による分散型として構築し、改修への柔軟性等を確保



参考４６

■スマートクールシティへの市民参画ストーリーを構成する要素



星川の水辺空間（まちなか再生の取組み）
（少し遠いが）荒川公園周辺かわまちづくり

都市緑化の考え方
（少し規模が極端だが）都市構造

クールシェア（５店・公共施設・スポット）
（公共交通利用が前提）
まちの施設（ミスト・日よけ）
街路樹　等

軸

気象センサーデータ（詳細化）
気象シミュレーション
データ可視化（WebGIS等）

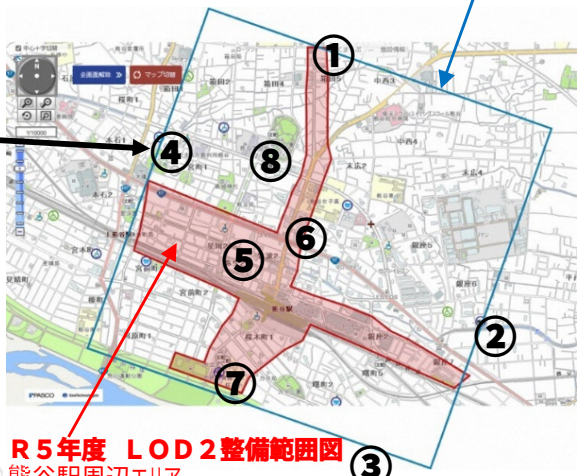
関係ツール・運用アイデア
（観測ツール、情報発信ツール、涼感グッズ、雪くま連携アイデア等）

暑さ対策スマートパッケージ（令和６年、7年夏）

まちなか8か所に気象センサーを設置（令和5年度）
気象シミュレーションを実施

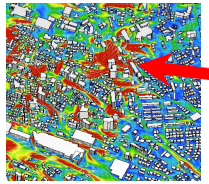


R５年度
気象シミュレーション範囲図
・シミュレーション範囲
熊谷駅を中心に徒歩15分圏内約２Ｋｍ四方を想定



R５年度　ＬＯＤ２整備範囲図
熊谷駅周辺エリア
（面積：0.6㎢　建物：2,100棟）

気象シミュレーションから、ヒートエリアとなる空間・時間の情報をスマホサービス（クマぶら）で提供

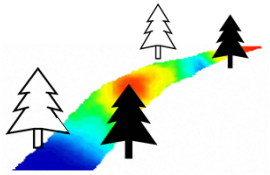


ヒートエリア

まちなかのクールシェアスポットを優先表示
暑い場所にあるクールシェアスポットにクマポを優遇付与



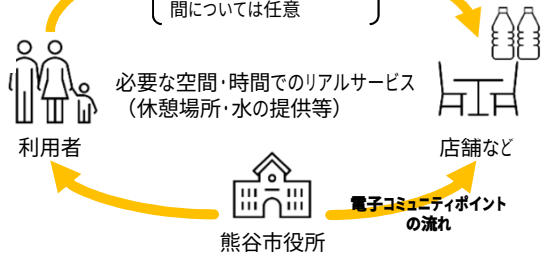
まちなかでの暑い箇所を緑陰・日陰状況により回する目安として道路の温熱環境を可視化



スマホサービス（クマぶら）

暑さ対策スマートパッケージ

クマポを行動変容に活用



市民・来訪者と店舗がWin-Winのまちなかウェルカム

今後の活用：気象データの研究活用や店舗利用者データの人流分析へ

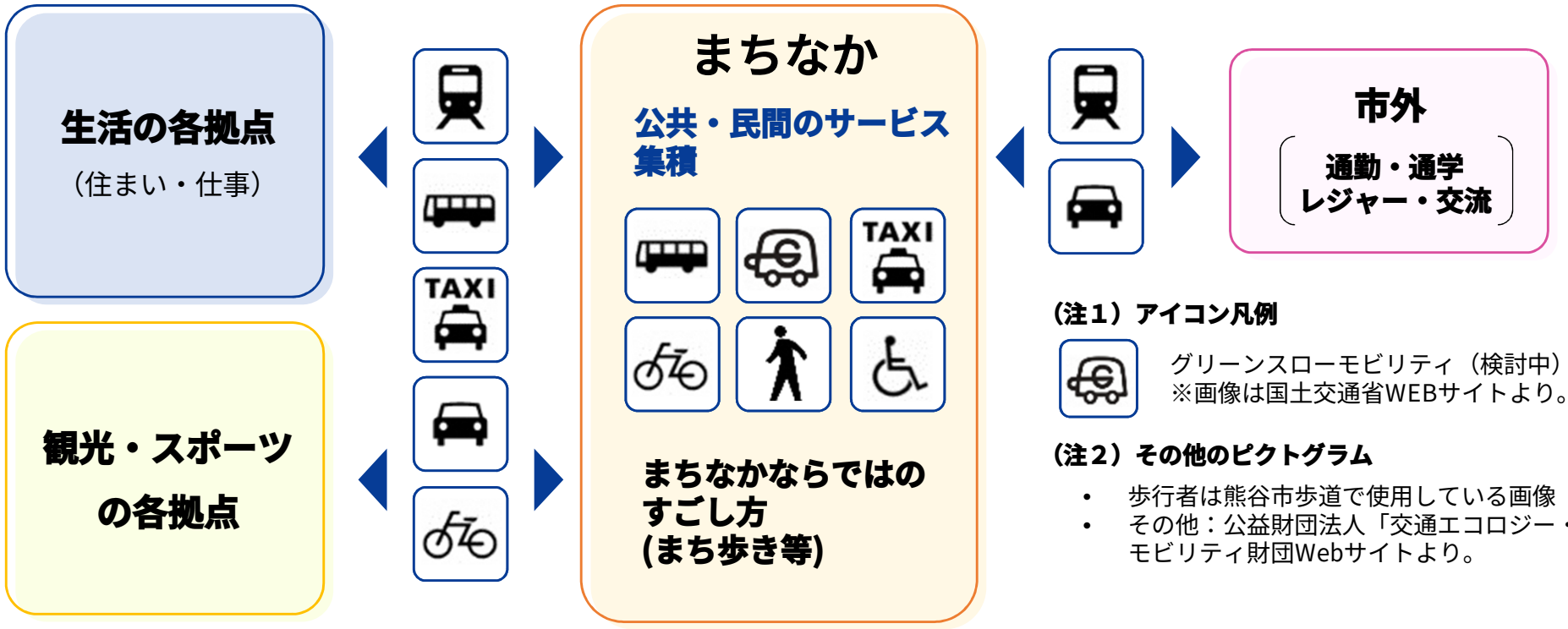
参考４７

■データ活用によるまちなかウェルカムのストーリー（１）

（人流データ活用まちづくりについて）

～まちなか再生の切り口からのアプローチ～

「まちなか」から見た人流のイメージ



（注１）アイコン凡例

グリーンスローモビリティ（検討中）
※画像は国土交通省WEBサイトより。

（注２）その他のピクトグラム

- 歩行者は熊谷市歩道で使用している画像
- その他：公益財団法人「交通エコロジー・モビリティ財団Webサイトより。

■データ活用によるまちなかウェルカムのストーリー（２）

（まちなかでの体験創造・実証の場の検討）

生活の各拠点（住まい・仕事）との対流

観光・スポーツの各拠点との対流

市外との対流（通勤・通学・レジャー・交流等）

キーワード　**『まちなかウェルカム』**

まちなかへの人流
まちなかでの人流
まちなかからの人流

リアル

魅力あるサービスの提供
例：新規出店、店舗改善

＋

歩きやすい・憩える空間づくりと移動手段の確保

×

デジタル

オープンデータ化、デジタルを活用した情報提供

＋

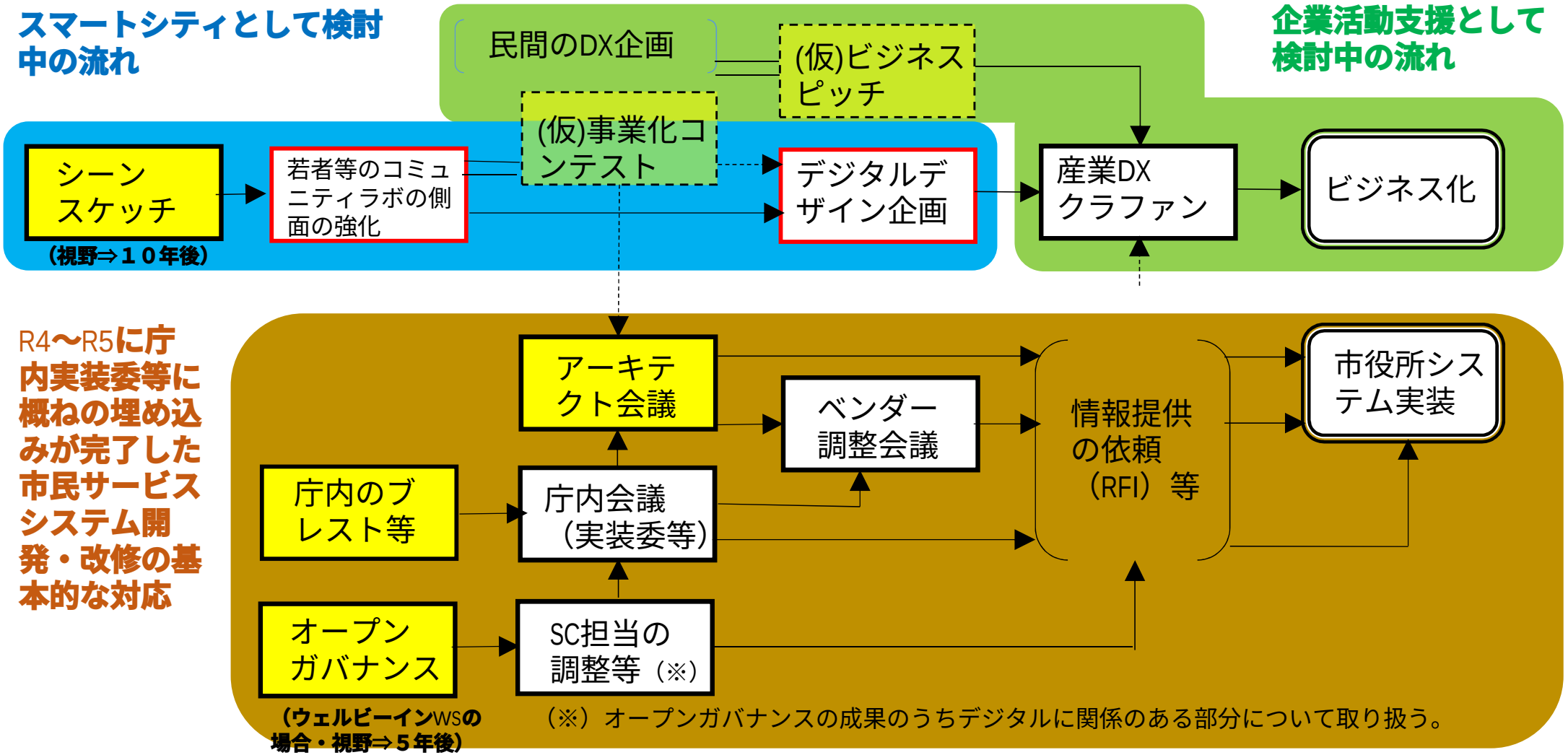
スマートシティで取り組む各種市民サービスとの連携

連携しての効果発揮のためには、人流データを活用した実施内容の検討・検証が不可欠

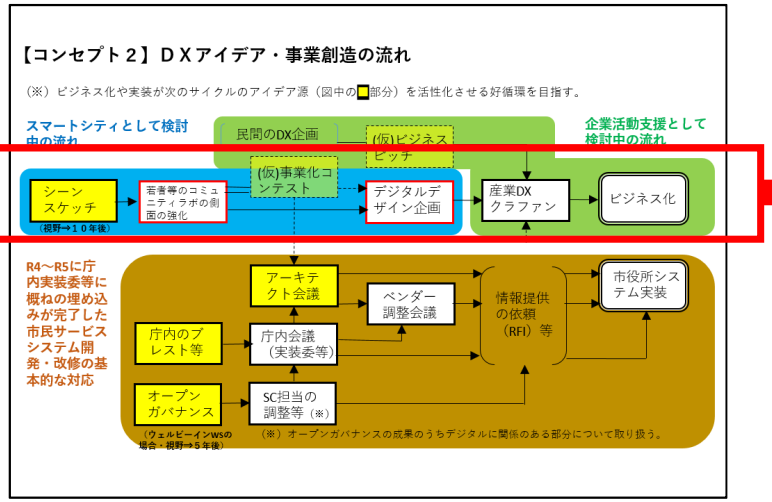
参考４８　参考４９

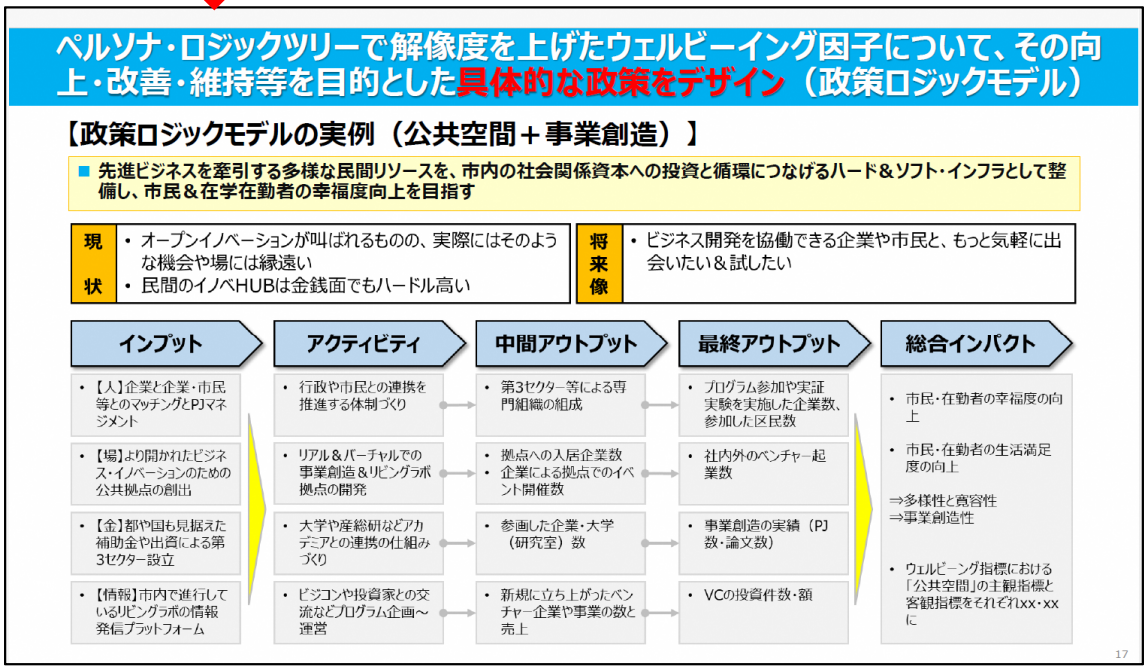
【コンセプト２】ＤＸアイデア・事業創造の流れ

（※）ビジネス化や実装が次のサイクルのアイデア源（図中の■部分）を活性化させる好循環を目指す。



■デジタルデザインのルートマップ（ロジックモデル）素案づくりのイメージ（検討中）



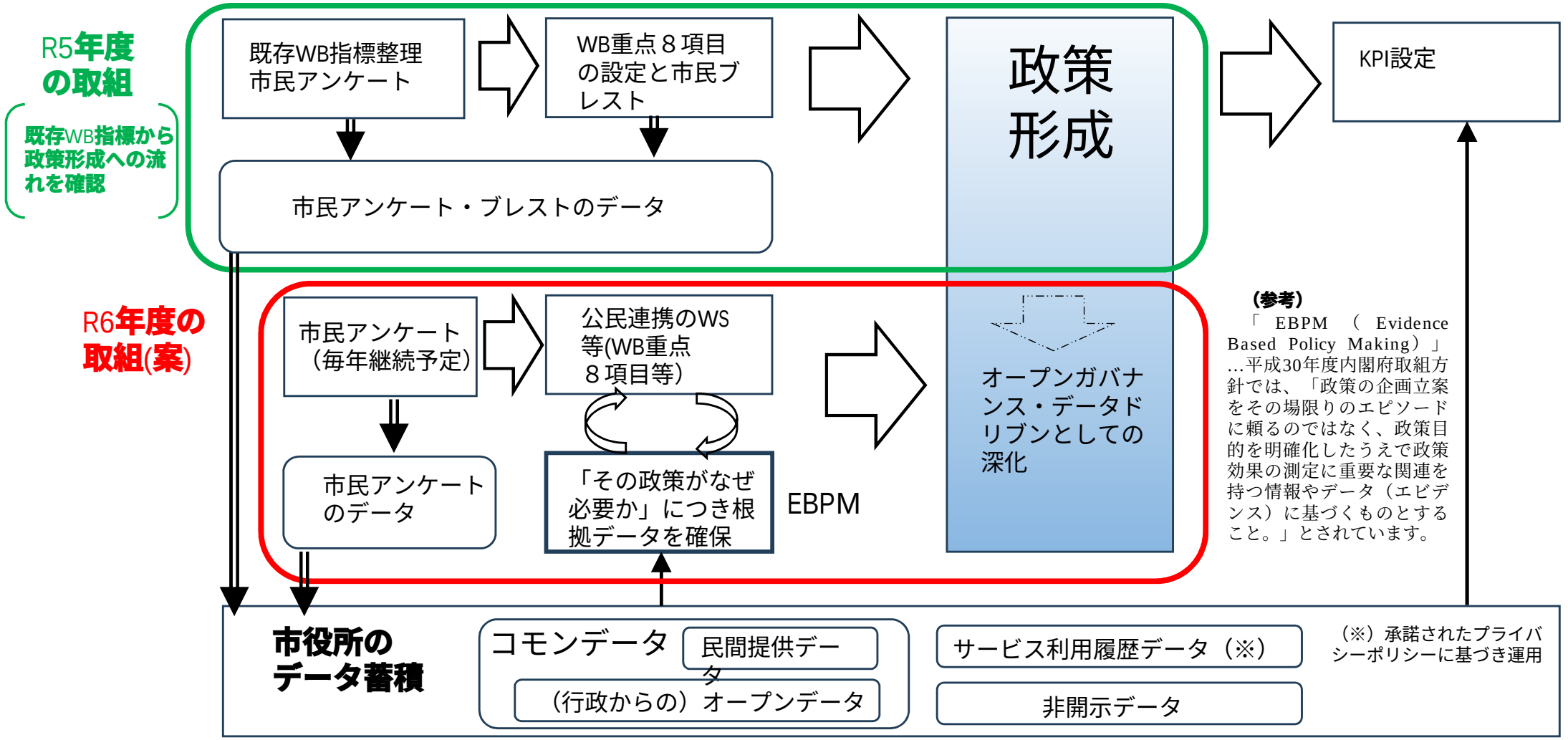


参考５３

（注）スマートシティインスティテュートがウェルビーイング指標の活用説明で用いた資料から抜粋したものであり、そのまま熊谷市への適用を目指すものではない。

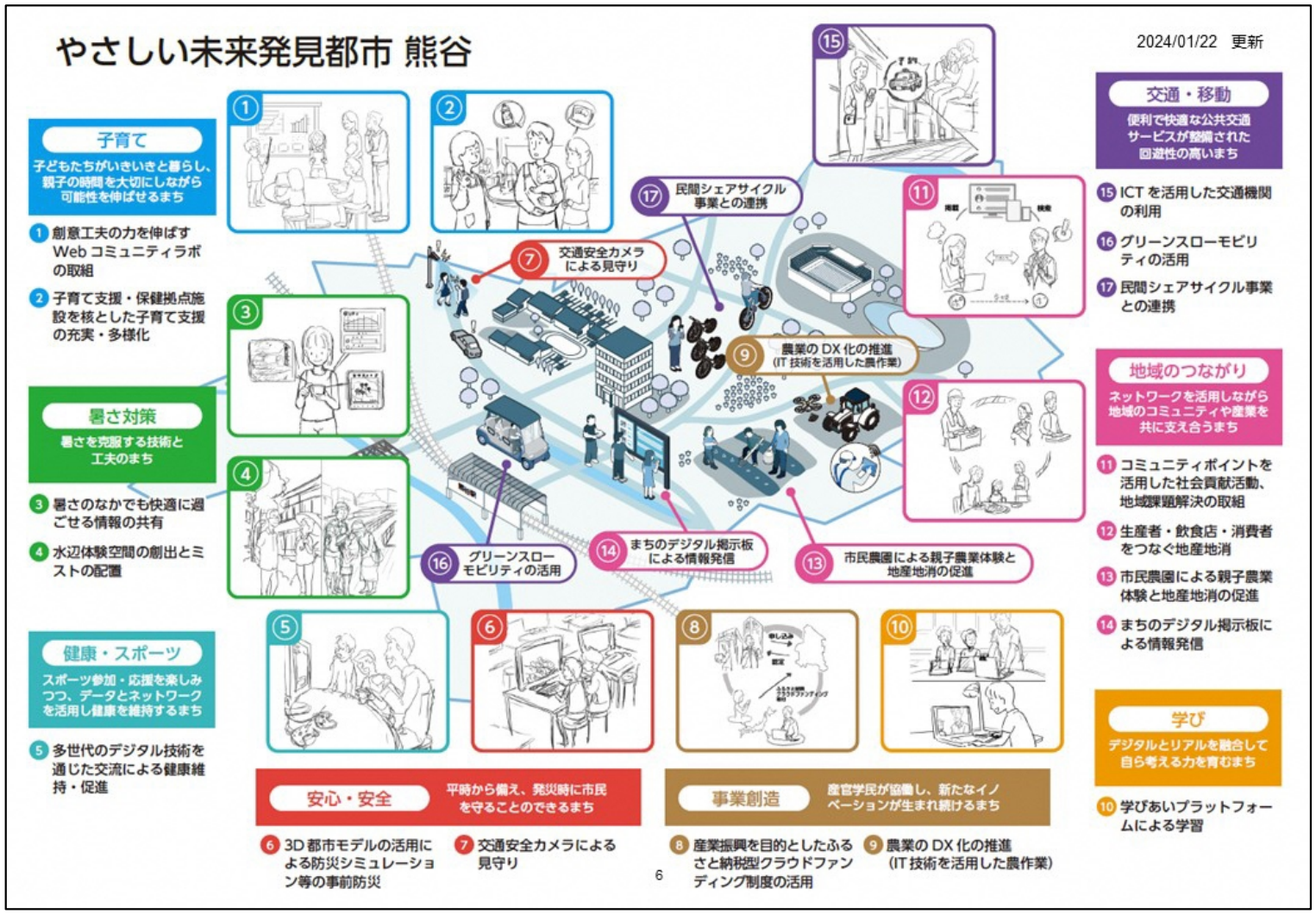
【コンセプト３】ウェルビーイング指標の政策検討への活用（EBPM）

熊谷市におけるウェルビーイング指標の活用とデータを活用した政策形成の関係（案）（デジタル社会における政策実装の取組みのモデル）



■WB重点８項目とWBビジョンマップ（案）について

#	項目
1	モビリティ（交通･移動）
2	暑さに対応したまち
3	安心･安全
4	スポーツ･健康
5	地域とのつながり
6	事業創造
7	子育て
8	学び

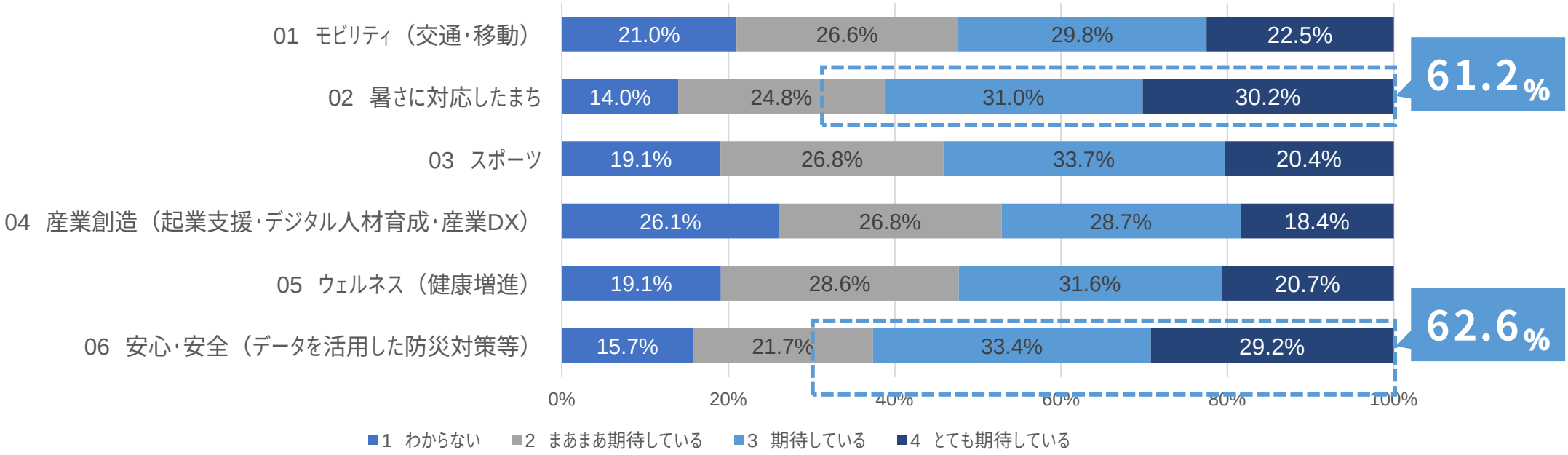


ウェルビーイングビジョンマップ案（準備中）

（※）R6年度に熊谷スマートシティ実行計画の更新への反映を検討予定

参考５４

■スマートシティ分野アンケート６項目に対する期待値
（令和５年度ウェルビーイング業務におけるアンケートより）



■「やさしい未来発見都市　熊谷」と熊谷市総合振興計画（R5年度～）

【市民向け】現在デジタルツールに関心が薄い市民を含め、市民のために共に取り組みたい、という市役所の方向性を伝えるためのフレーズ。

【庁内担当者・関係者向け】各々の手法の目的・実践内容等（下線部）を共有

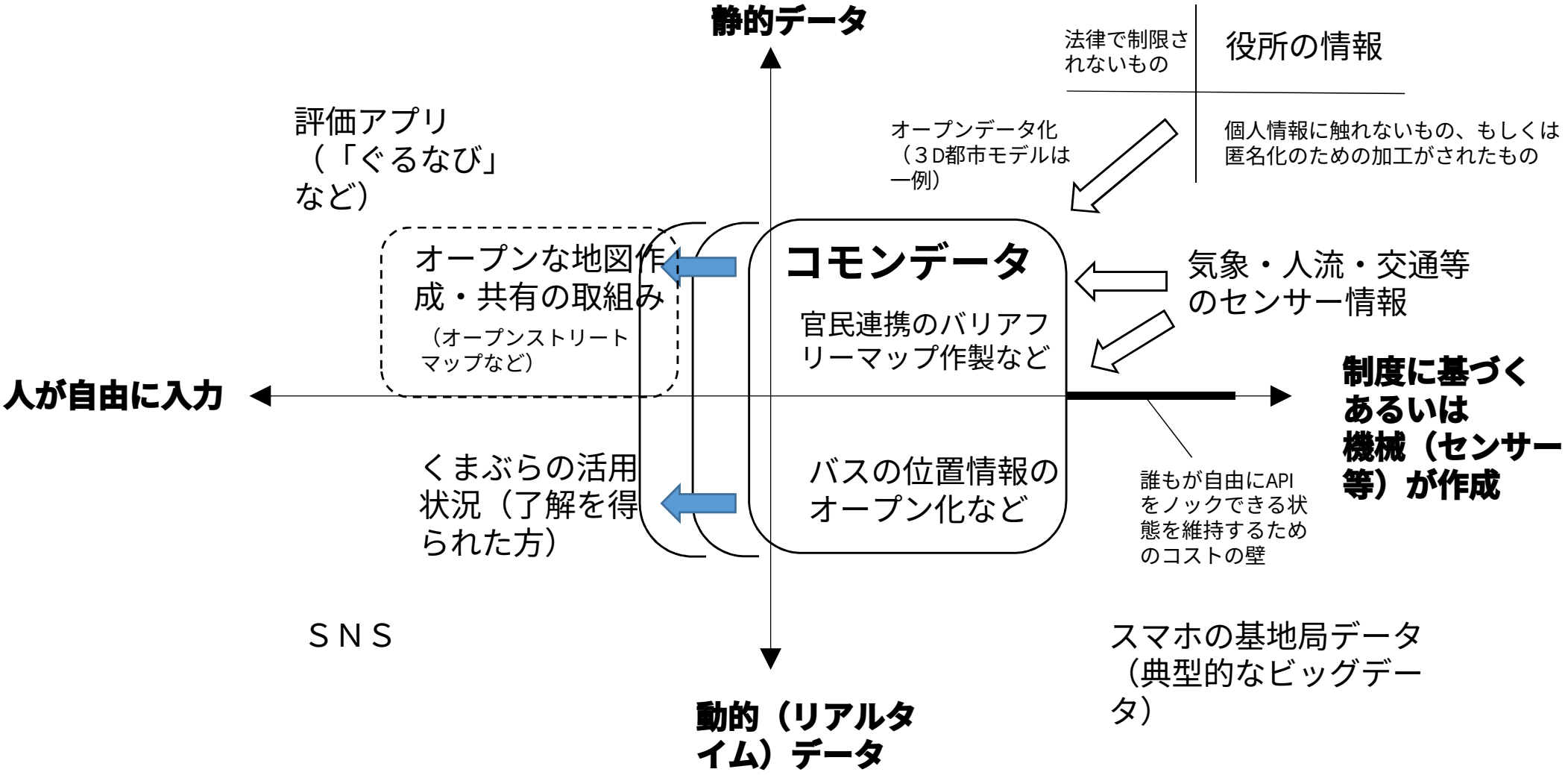
リーディングプロジェクト
「DXによる市民生活の利便性向上と新たな経済活動の創出」

熊谷市Society5.0の推進	○スマートシティ推進による地域コミュニティの活性化	○３Ｄ都市モデルの整備・活用によるまちづくりへの市民参画の確保
	○スマートエコタウンの整備促進による先進的な省エネ対策の導入促進と、コミュニティへのスマート手法の定着	○公共空間のWi-Fi整備により誰でも・どこでもアクセスできるデジタル社会の環境整備
生活利便性の向上	○行政施策（スマートシティの実現など）の“まちの魅力”としてのシティプロモーションによる、デジタル活用施策の利用促進、生活の利便性（満足度）向上の早期実現	○くまがやまち歩きアプリくまぶらの導入による、市民の利便性向上とデータ活用型サービスの進歩による好循環の促進
	○地域経済を守るデジタル地域通貨の導入・普及 ～電子マネー機能と並行して換金･購入補助を目的としないコミュニティポイント機能を実装し、相互扶助の活性化によるコミュニティの持続性確保を図る。	○マイナンバーカードの利活用拡大（個人の事情に合わせたサービス・セキュリティが必要なサービス等へのアクセス改善）
デジタル人材の育成	○地域の子供・若者の可能性の拡大、地域産業の活性化（起業・再チャレンジ促進等を含む）や行政の効率化等に向けたデジタル人材の育成	○教育現場のデジタル化の推進による学びの充実
デジタルガバメントの推進	○自治体DXの推進による人にやさしい熊谷の実現 ～（仮称）窓口業務改革PTをR5年度に創設予定。（「持たない」「分かりやすい」「行かなくていい」）	○オープンデータの推進による市民連携のデータづくり・活用の促進
		○データ連携基盤の整備と活用による、データ活用の産学連携、広域自治体連携等の促進

（参考）他のリーディングプロジェクトにおけるDX関連項目

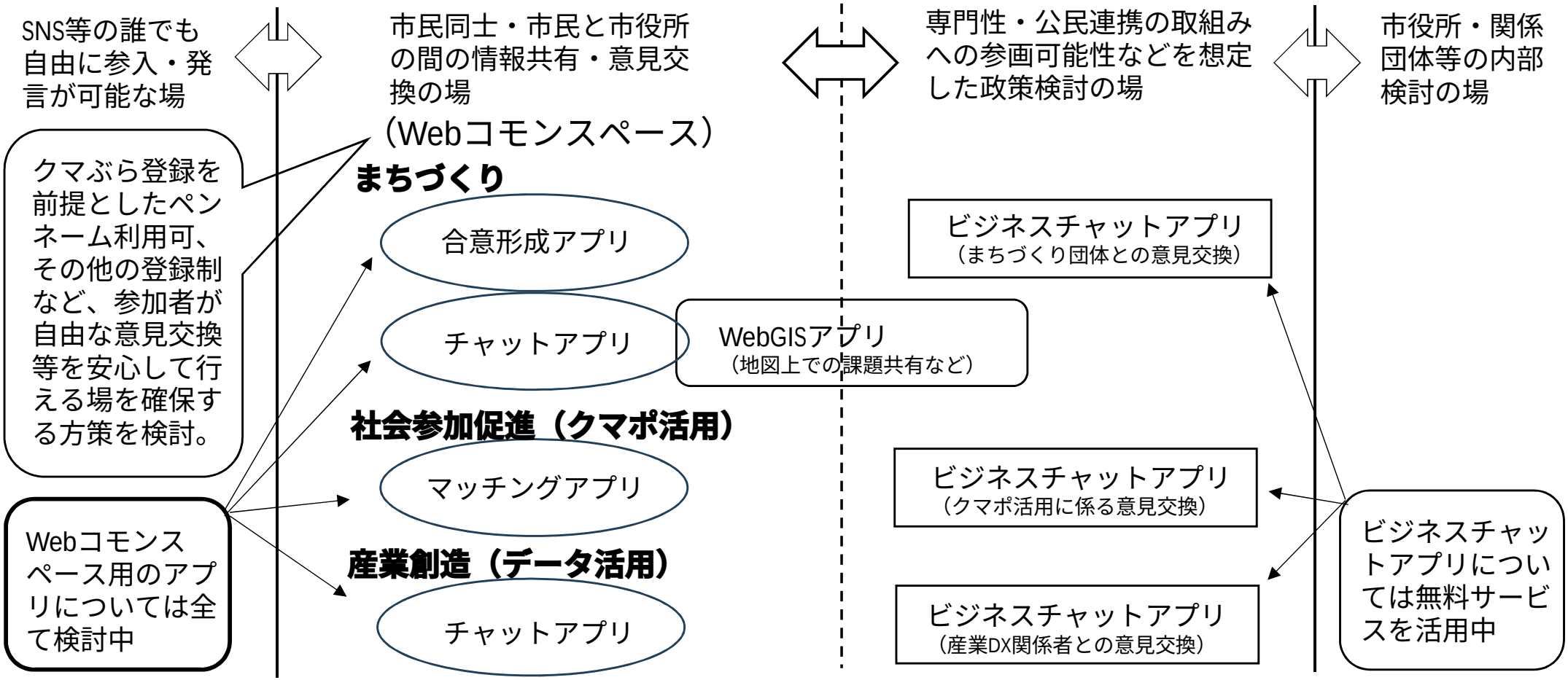
○子育てアプリの活用　～親子の笑顔が輝くまちづくり	子育て世帯向け情報提供の改善等の検討に取組中
○ユニバーサルデザインのまちづくり　～誰もが活動しやすく、支え合う地域づくり	バリアフリー情報のデジタル化等に取組予定
○移動支援及び公共交通の充実　～誰もが活動しやすく、支え合う地域づくり	Maas及び人流に着目したまちなか活性化等に取組予定
○熊谷版スマートハウスの推進　～ゼロカーボンシティを実現するまちづくり	気候シミュレーション・公共交通活用等と連携

【コンセプト４】コモンデータ・Webコモンスペースの考え方による公民連携のデータ活用（誰でもデータ作成に関われる仕組みの考え方）



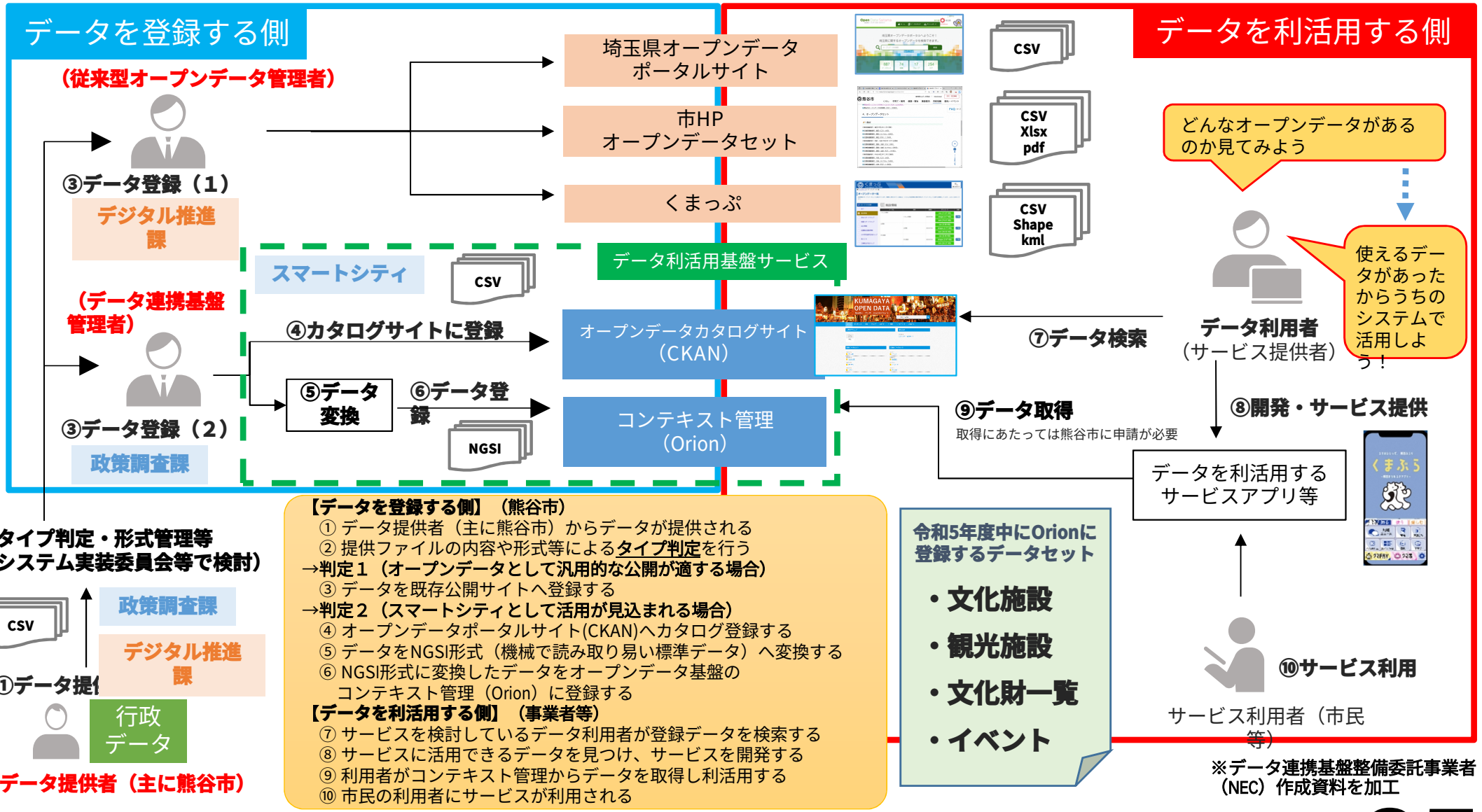
■Webコミュニケーションツール等の活用（Webコモンスペース）による協働

まちづくり、社会参加促進（クマポ活用）、産業創造（データ活用）等の分野における、公民連携や民間主導の取組みを促進するためWeb上の情報共有・意見交換の場（Webコモンスペース）の設定を積極的に検討。



参考５５～６０

■オープンデータ基盤を活用したデータ利活用の流れ



※データ連携基盤整備委託事業者（NEC）作成資料を加工

【参考資料】

■熊谷スマートシティの宣言・方針・実行計画等の構成について

【1】熊谷スマートシティ宣言（理念・目的（パーパス））

【2】熊谷スマートシティトータルブランディング方針

（1）デザインルール
- やさしい未来発見に向けた３つの好循環
- ビジュアルの統一について
- スマートシティ関係部局を中心にした熊谷市版IT スキルの整理と普及
- 「暑い」に類する表現の用い方について

（2）政策企画方針（コンセプト）
- 熊谷スマートシティの政策企画において重視するポイント
- 新たなアイデアを熊谷スマートシティ、市内産業DXに取り入れる流れ
- ウェルビーイング指標の政策検討への活用（EBPM）
- コモンデータ・Webコモンスペースの考え方による公民連携のデータ活用

SSID（スマートフォン サービス インターフェイス デザイン）ガイドライン

熊谷スマートシティスキルカタログ

（仮）デジタル・デザインルートマップ

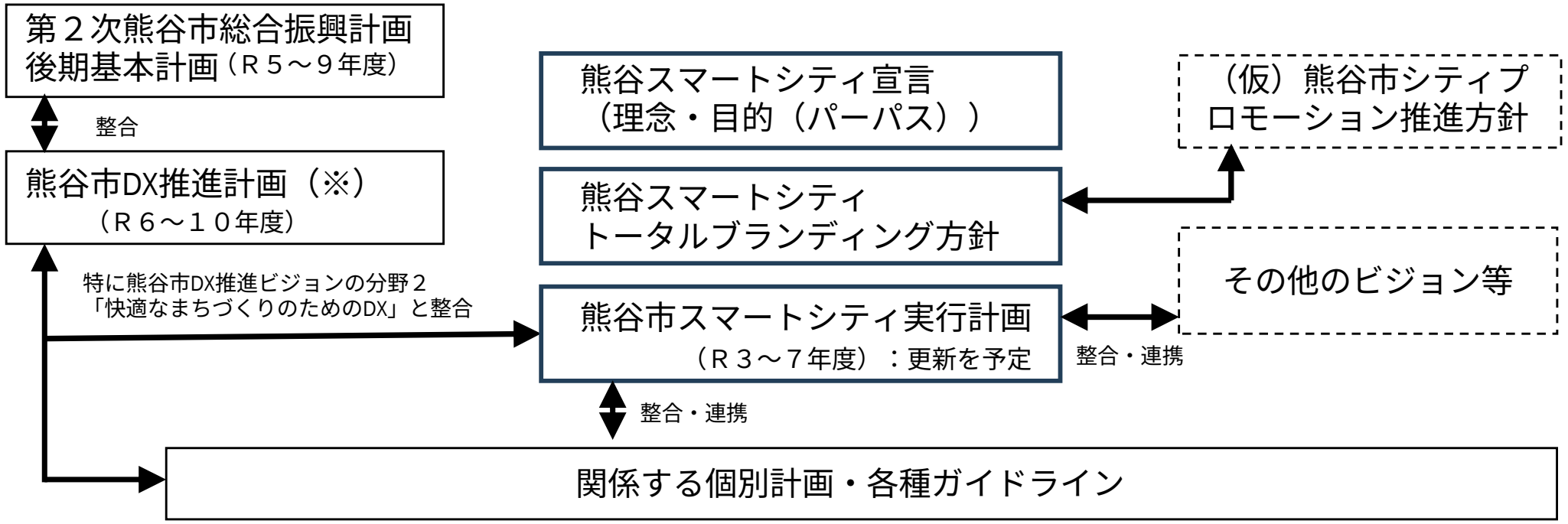
（熊谷スマートシティ版）市民参加型のWebGISの活用に向けた取組みの手引き

【3】熊谷スマートシティ実行計画（具体の実行の段取り）

ウェルビーイングビジョン（R5年度）

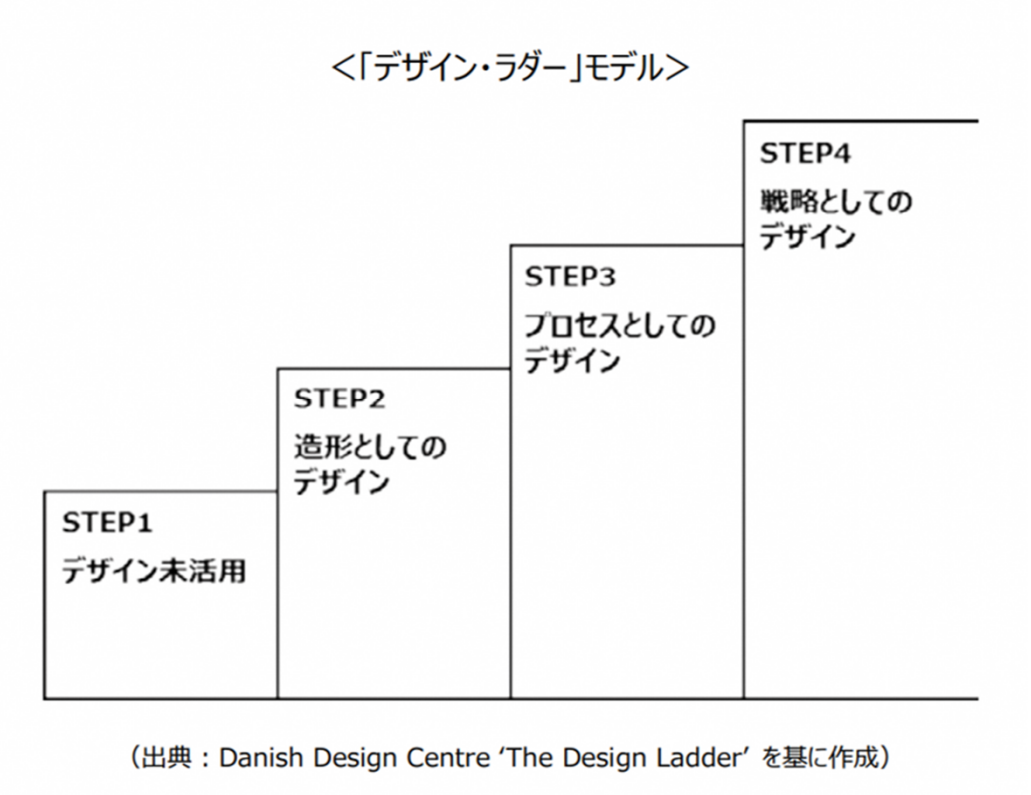
■市の各種計画（総合振興計画・DX推進計画等）との関連について（案）

「熊谷市DX推進計画」及び「熊谷市シティプロモーション推進方針」の策定後に「案」が取れる予定。



（※）熊谷市DX推進計画は、官民のデータ活用推進基本方第９条第３項に規定する「市町村官民データ活用推進計画としても位置付けられる。

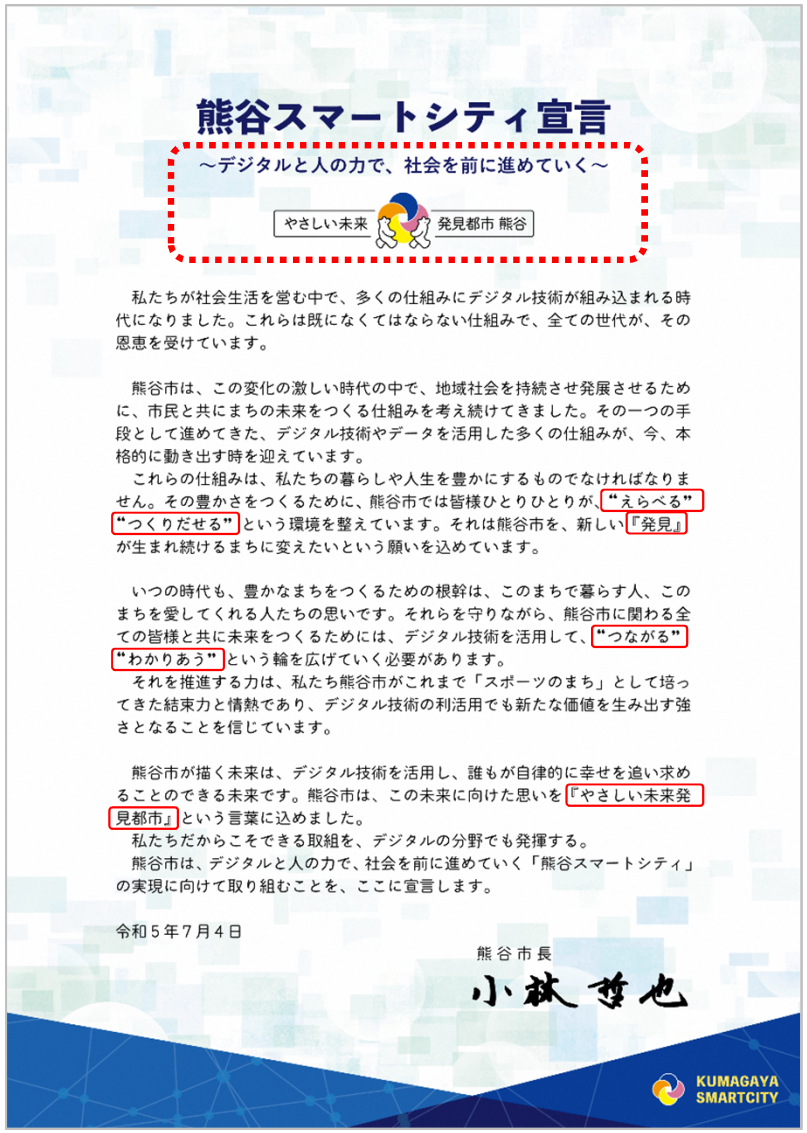
■デザイン・ラダーモデルとの関係について



〇トータルブランディング方針の構成においては、「デザイン・ラダーモデル」を参考とした。
〇具体的には、市役所の業務への導入を念頭に、「造形としでのデザイン」「プロセスとしてのデザイン」を「デザインルール」に、「戦略としてのデザイン」を「政策企画方針（コンセプト）」に置き換えての検討を行った。

（出典）「デザイン政策ハンドブック2020」（経産省）　「Ⅰ　デザイン政策の概要」より抜粋
デザイン活用の段階 組織におけるデザイン活用の段階を表したモデルとして「デザイン・ラダー」（デザインの段階）12 があります。 2001 年にデンマーク・デザイン・センターが提示したこのモデルでは、４つの段階、すなわち、「デザイン未活用 （Non-design）」、「造形としてのデザイン（Design as form-giving）」、「プロセスとしてのデザイン （Design as process）」、「戦略としてのデザイン（Design as strategy）」が示されています。 ここで、第１段階の「デザイン未活用」は、組織としてデザインを活用していない段階、第２段階の「造形として のデザイン」は、デザインを製品・サービスの外観の仕上げ、スタイリングとして活用している段階を表しています。また、 第３段階の「プロセスとしてのデザイン」は、製品・サービス開発の初期段階からデザインのプロセスが取り入れられ、 デザイナーのみならずエンジニアやマーケッターなど他領域の専門家との協働が行われている段階、そして、第４段 階の「戦略としてのデザイン」は、経営者や経営層の協力の下、企業のビジョンやビジネスモデルを変革するために デザインの考え方を活用している段階を表しています

■ 成長サイクルとスマートシティ宣言の関連（補足１）



熊谷スマートシティ宣言

～デジタルと人の力で、社会を前に進めていく～

やさしい未来　発見都市 熊谷

私たちが社会生活を営む中で、多くの仕組みにデジタル技術が組み込まれる時代になりました。これらは既になくてはならない仕組みで、全ての世代が、その恩恵を受けています。

熊谷市は、この変化の激しい時代の中で、地域社会を持続させ発展させるために、市民と共にまちの未来をつくる仕組みを考え続けてきました。その一つの手段として進めてきた、デジタル技術やデータを活用した多くの仕組みが、今、本格的に動き出す時を迎えています。

これらの仕組みは、私たちの暮らしや人生を豊かにするものでなければなりません。その豊かさをつくるために、熊谷市では皆様ひとりひとりが、“えらべる”“つくりだせる”という環境を整えています。それは熊谷市を、新しい『発見』が生まれ続けるまちに変えたいという願いを込めています。

いつの時代も、豊かなまちをつくるための根幹は、このまちで暮らす人、このまちを愛してくれる人たちの思いです。それらを守りながら、熊谷市に関わる全ての皆様と共に未来をつくるためには、デジタル技術を活用して、“つながる”“わかりあう”という輪を広げていく必要があります。

それを推進する力は、私たち熊谷市がこれまで「スポーツのまち」として培ってきた結束力と情熱であり、デジタル技術の利活用でも新たな価値を生み出す強さとなることを信じています。

熊谷市が描く未来は、デジタル技術を活用し、誰もが自律的に幸せを追い求めることのできる未来です。熊谷市は、この未来に向けた思いを『やさしい未来発見都市』という言葉に込めました。

私たちだからこそできる取組を、デジタルの分野でも発揮する。

熊谷市は、デジタルと人の力で、社会を前に進めていく「熊谷スマートシティ」の実現に向けて取り組むことを、ここに宣言します。

令和５年７月４日

熊谷市長

小林哲也

KUMAGAYA SMARTCITY

熊谷スマートシティでは、以下の2つをキーワードとして設定。

『やさしい未来発見都市』

『デジタルと人の力で、社会を前に進めていく』

『熊谷スマートシティ宣言』では「データ活用」だけでなく、「人の力」の重要性も伝えるというコンセプトから以下のワードを使用。

『えらべる』 『つくりだせる』 『つながる』

『わかりあう』

『発見』という概念で全体にまとわせ、スマートシティ政策の統一感を出す。

■ 成長サイクルとスマートシティ宣言の関連（補足２）



宣言と同様、熊谷スマートシティのキーワードである以下を使用。

『やさしい未来発見都市』

『デジタルと人の力で、社会を前に進めていく』

『熊谷スマートシティシンポジウム』は、「実装する事業」の発表がメインであることから、今後の事業展開によって期待される、以下のワードを使用。

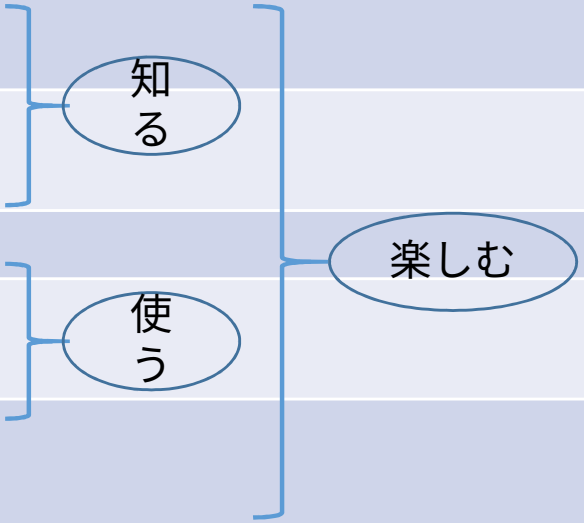
『わかる』 『つながる』 『選べる』 『見つける』

熊谷スマートシティ宣言と同様、『発見』という概念で全体にまとわせ、スマートシティ政策の統一感を出す。

■ 熊谷スマートシティと「クマぶら」のワードの関連性

共通キーワード：「やさしい未来発見都市」、「デジタルと人の力で社会を前に進めていく」

	宣言	シンポジウム	クマぶら	クマぶらのリッチメニュータブ
共通概念	「発見」			
コンセプト	「人の力」と「データ活用まちづくり」を伝える	「データ活用まちづくり」と実装を伝える	「クマガヤ知るなら」…新たな使い方、自分なりの楽しみ、自律的な幸せの発見 ※　入口としての役割を果たすため、「使いたい」メニューを探しやすくすることを第一とする。そのうえでシンポジウムのキーワード「知る」「使う」「楽しむ」に分類。特に「楽しむ」は全体にかかりながらも「豊かさ」を実現するために「精神的な欲求」を満たすアプローチ要素を持つメニューを入れる。	
「わかる」 知識を得ることで気づきを得ること	文脈の「発見」に含む	○	様々な情報を得られることで「わかる」（クマぶら）	
「わかり合える」 人とつながることで他者を理解すること	○	市長の「宣言」により「人」への重要性は伝わる	つながることで相手と「わかりあえる」（クマポ）	
「つながる」	○	○	「つながる」ことができる（クマポ）	
「えらべる」	○	○	豊富なメニュー（クマぶら）、様々なつながり（クマポ）、地域電子通貨の使用パターン（クマPAY、バス）	
「見つける」 データそのものやデータ活用の未来を見つける	文脈の「発見」に含む	○	自分の「好き」を「みつける」ことができる（クマぶら）	
「つくりだせる」 見つけることで作りだすことができる	○	各課が発表する事業を「つくりだされたもの」と整理	※クマぶら利用者がクマぶらで「つくりだす」はないが、集めたデータで新しい事業やサービスを「つくりだせる」	



■熊谷市における自治体DX・スマートシティの取組みと熊谷市版ITリテラシーの関係

熊谷市DX推進本部でのリテラシー向上が主に目指す範囲

『庁内でシステムを活用し業務を改善できる職員の確保』

（※）基幹系システムは関わる部署が限定され、追加でスキルが必要とされる部署には専門職を配置。

うちスマートシティ戦略部会でのリテラシー向上が主に目指す範囲

『デジタルと人の力で社会を前に進めることに市民と共に取り組める職員の確保』

（※）政策システムは関わるか課や担当が拡大中。着任後に円滑に追加スキルを確保することが必要な場合あり。

① ＤＸに関する理解等

デジタルを活用した業務改善の必要性

② ＩＴ手法に関する理解等

基幹系システム・複雑な事務系システムの取扱い

政策システム（市民サービス、市民参画ツールなど）の企画・実装・運用（将来的には民間システムとの連携も見込まれる。）

③ EBPMに関する理解等

庁内のデータで職員が検討可能なEBPM

市民サービス利用履歴などのデータ活用（利用者当人の同意により提供されたものに限る））

【参考】熊谷市における「スマートシティ（SC）」の指す内容

市内全体のデジタル系の取組の総称としてのSC（広義）

市役所のデジタル施策全般

基幹系システム
事務系システム

政策システム面のSC（狭義）

実証支援等
データ活用

民間主体のデジタル系の取組

市の施策以外のどの範囲を広義のSCに含めるかは業界と市役所の戦略により変化

【注】「ITリテラシー」と「ITスキル」の区別（熊谷市役所における定義）
・ITリテラシーは一般的な業務の基礎となる知識等を指し、スマートシティに関係するシステムやデータの設計・実装・運用等に関わる上での基本的な考え方を整理したITスキルとは区別される。

■熊谷スマートシティにおける「暑い」に関する表現の調整経緯等

〇熊谷市の「暑さ」の歴史（スマートシティ関連事項の詳細）

・平成17年から、前市長の下で熊谷市の暑さ、市民の気持ちの熱さ、人情の篤さなどの「あつさ」をキーワードにした「あついぞ！熊谷事業」を実施。

・平成１９年、当時の国内最高気温を観測したことを契機に「熱中症から市民の健康を守ること」を緊急課題に捉え、この課題解決を図るとともに、「快晴日数日本一」という特徴的な気象条件を生かした地域振興策を事業化したプロジェクトを開始し、暑さ対策に軸足を移した。

・平成３０年度～令和４年度を計画期間とする第２次総合振興計画前期基本計画において「暑さ対策日本一の推進」をリーディングプロジェクト」に掲げた。

・令和４年度、暑さにからめて行ってきた政策の全面的な見直しを実施。
→41事業中、19事業を継続（主に駅前広場冷却ミスト、太陽光発電補助、学校教育等）とし、22事業を廃止（主に啓発、グッズ配布、表彰等）と決定した。
⇒廃止事業のうち、市内30小学校に設置している老朽化したWBGT計の撤去は、センサーやデータの有効性を再確認するため継続検討とされたが、結果的にR5.秋に撤去した。

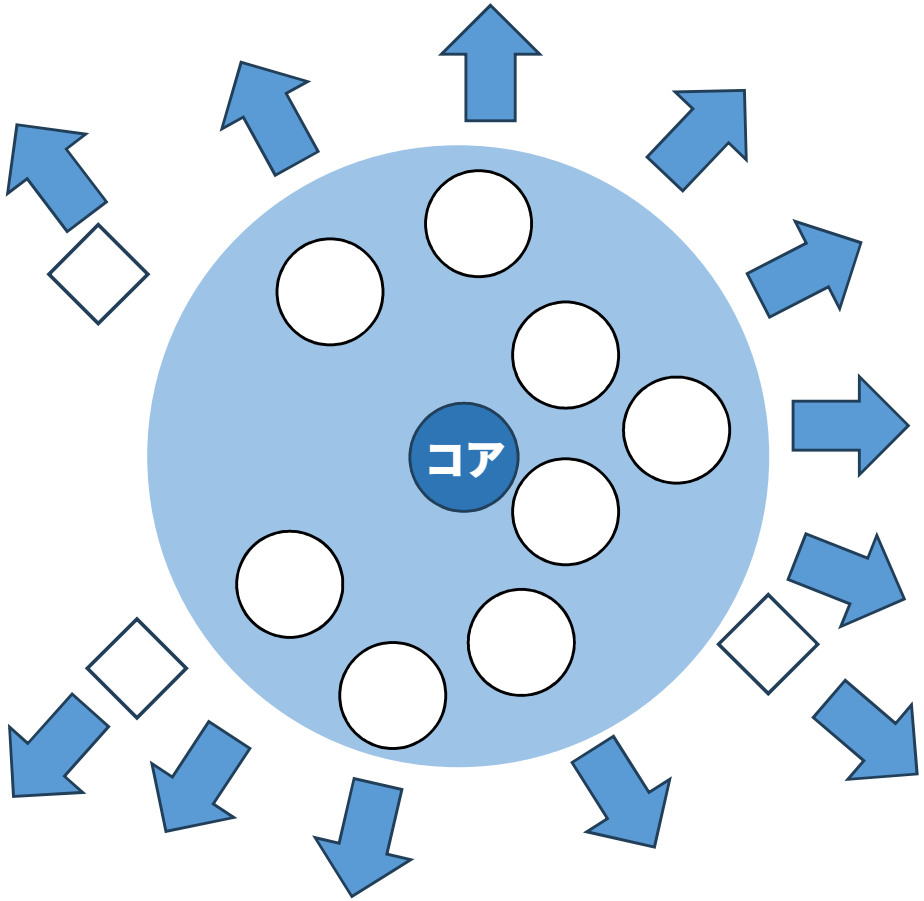
・令和４年度、スマートシティ施策の一環としての「暑さ対策スマートパッケージ」により「暑さ対策スマートコミュニティの実現を目指すことについては、新しい切り口で暑さを扱うこととした。

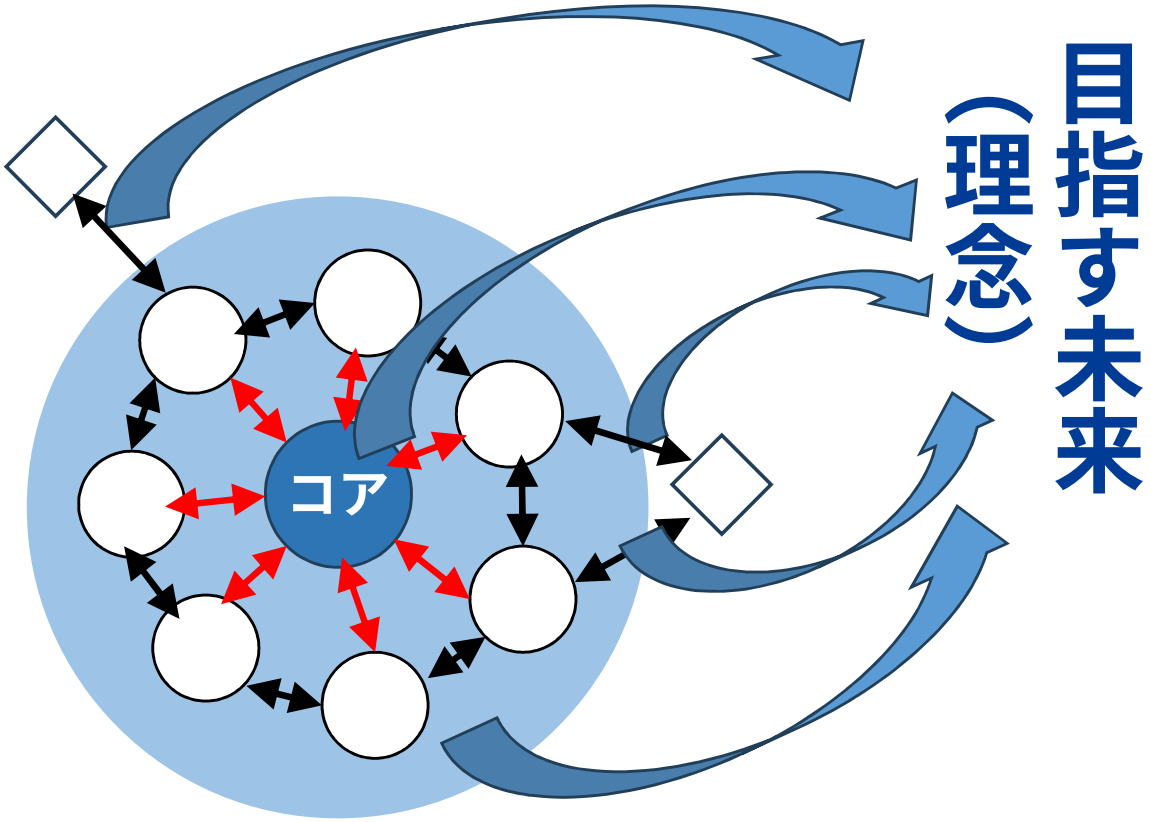
・併せて、必要な場合には「日本一アツいスマートシティ」の表現を用いることとした。

■ブランディングの核（コア）となるストーリー・コンセプトの重要性について

【1】核（コア）が小さくインナーブランディングや連携の重視が表明されていなければ、単純な群発のインパクトに留まる。

【2】核（コア）を置き①庁内でのブランド磨き（インナーブランディング）や②部署間・公民連携を評価する方針により効果的・持続的なブランディングを目指す。



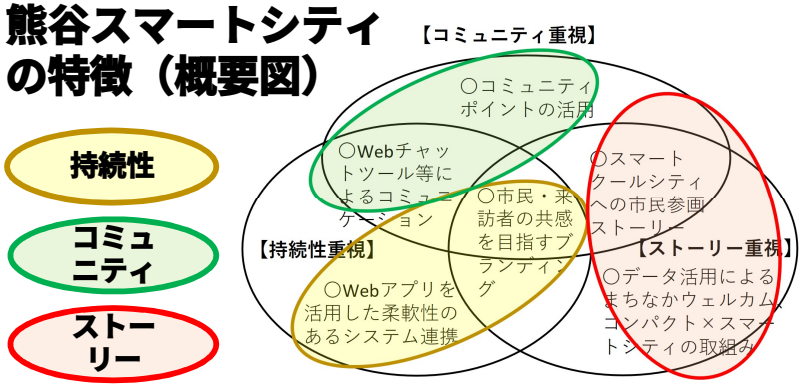


【凡例】

- ◇ 民間による実践
- ○ 行政による実践
- ➡ 外部への発信
- ↔ 核（コア）になるストーリー・コンセプトと実施内容の照応による、ストーリーの定着、実施内容の向上（インナーブランディング）
- ↔ 核（コア）になるストーリー・コンセプトで結びついた部署同士公民の間での連携や補完

■熊谷スマートシティにおいて重視する点と実行計画の関係整理

熊谷スマートシティの特徴（概要図）

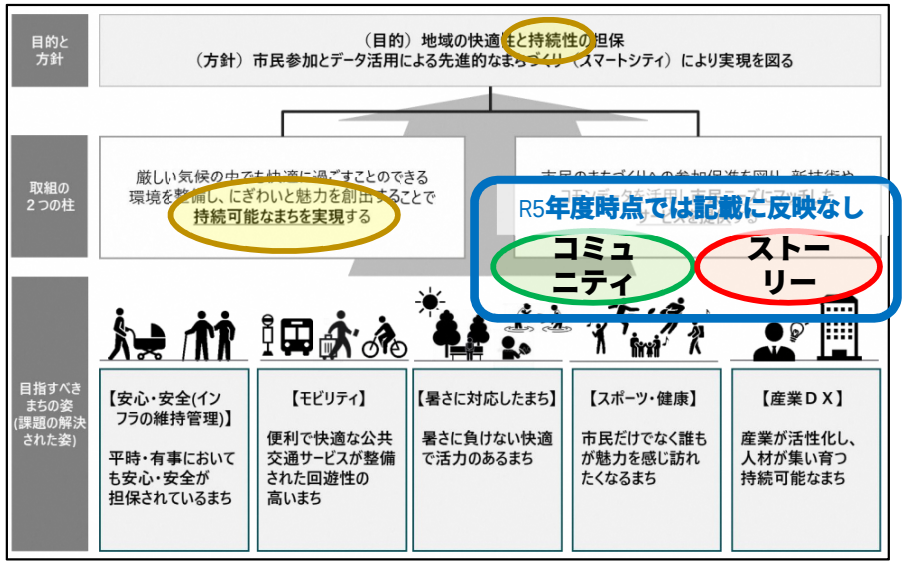


令和５年１２月更新版の熊谷スマートシティ実行計画との関係は以下【１】【２】のとおり。

（補足）
・熊谷スマートシティにおいては、令和３年度に実証実験用に策定した実行計画を令和５年度・令和６年度の二段階で、実装用の計画に更新中。
・令和５年度１２月の更新時点では、左図の「Webチャットツール等～」「～ブランディング」「スマートクールシティ～」等の内容が未整理であったため、令和６年度の改訂への反映に向けて検討中。

【１】熊谷SCの目指す５つの姿について重視する観点

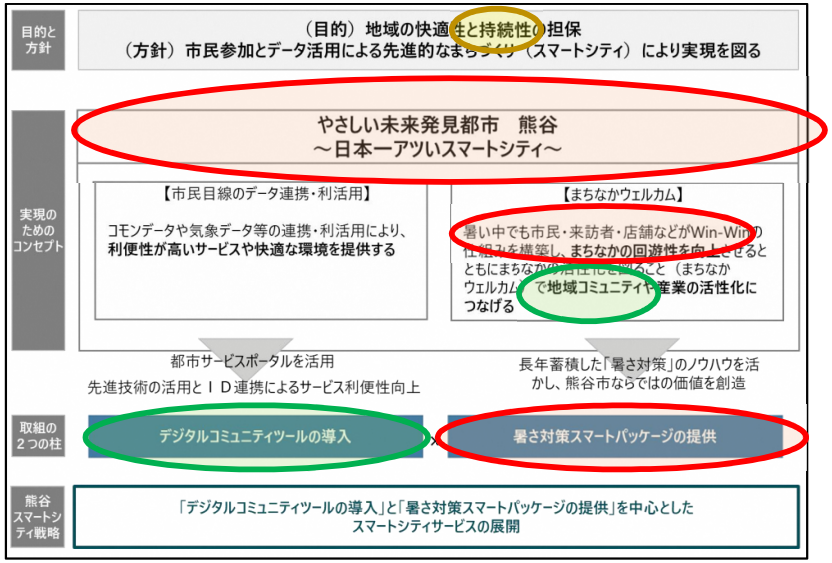
（観点としては「持続性」を重視）



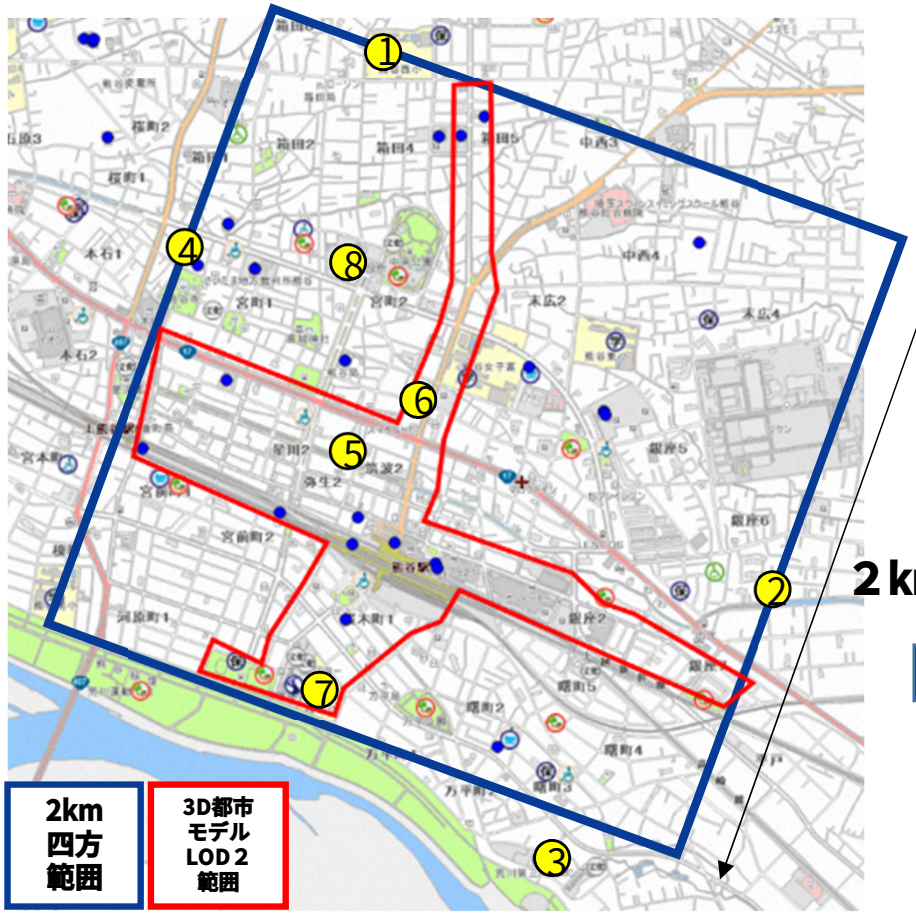
実装時には「姿」だけでなく、具体の働きかけ対象（熊谷SCの場合「コミュニティ」）や「ストーリー」が必須

【２】熊谷SC実装時に核となるコンセプトとシステム

（「持続性」を前提として具体のシステムの設計・実装に落とし込む際には「コミュニティ」と「ストーリー」を重視）



■気象シミュレーション及び３D都市モデルLOD２化の範囲



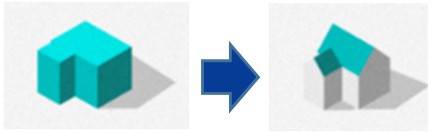
気象センサーの設置（左図①～⑧）と活用

・主旨に賛同を得た民間ビルの協力も得つつ、８か所に設置。

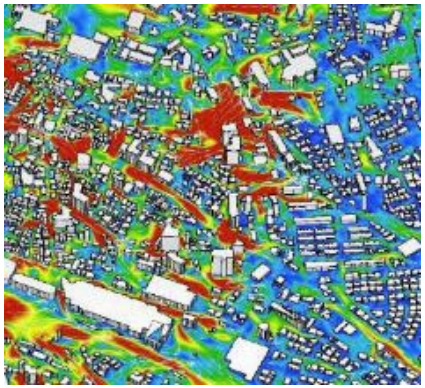
・気象データはサーバーの負荷も考慮しつつ研究等に提供を予定。

３D都市モデルの詳細化

➡ 気象シミュレーションの精緻化



LOD（詳細度）１　　LOD（詳細度）２



気象シミュレーション（イメージ）

２km四方

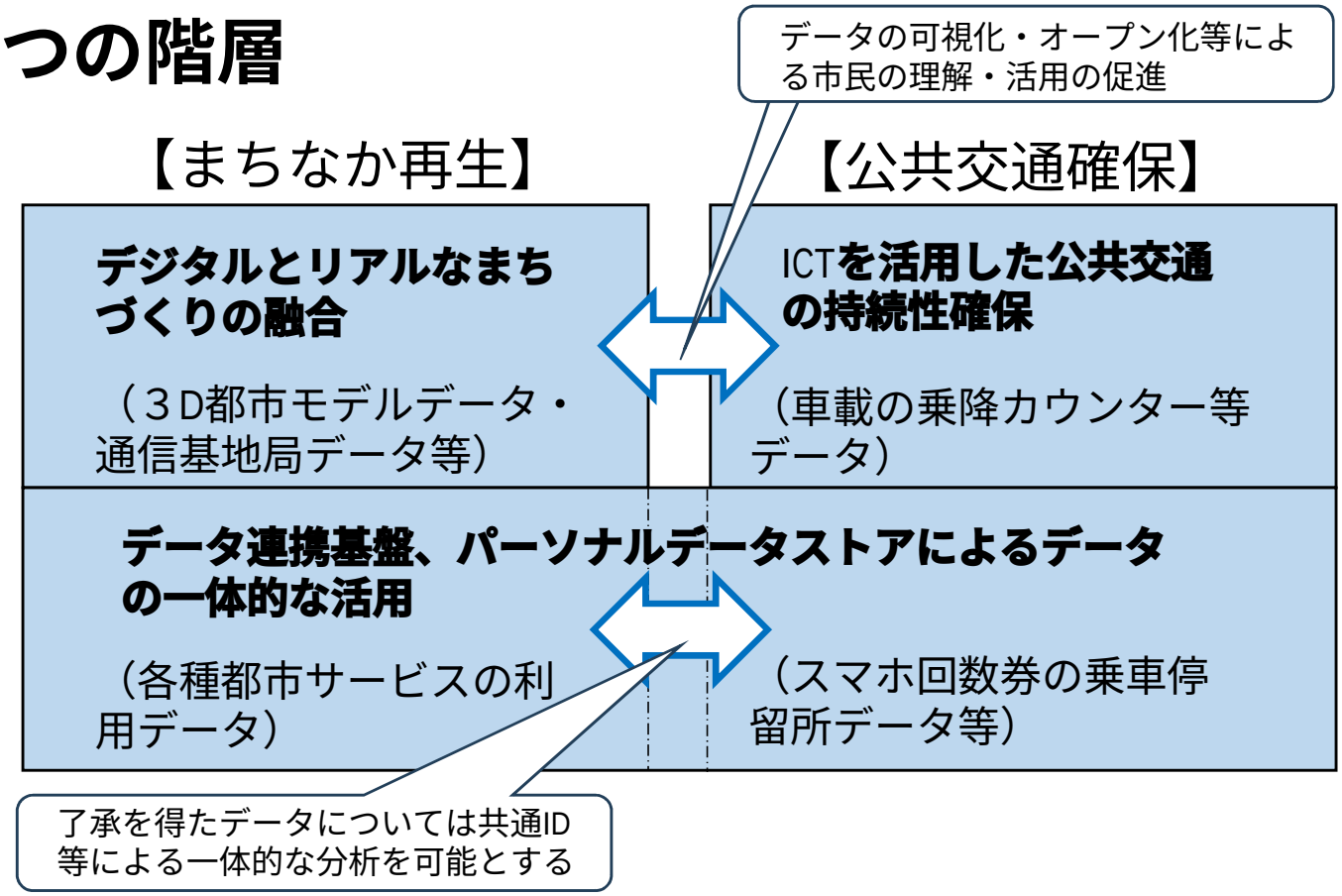
■データを活用したまちなか再生と公共交通確保（１）

データ活用の２つの階層

【目標①】既存のデータ活用によるまちづくりへの市民参画

【目標②】サービス利用者の了承により得られた（※）新たなデータの活用

（※）オプトイン方式



■データ活用によるまちなか再生と公共交通確保（２）

取組みの詳細

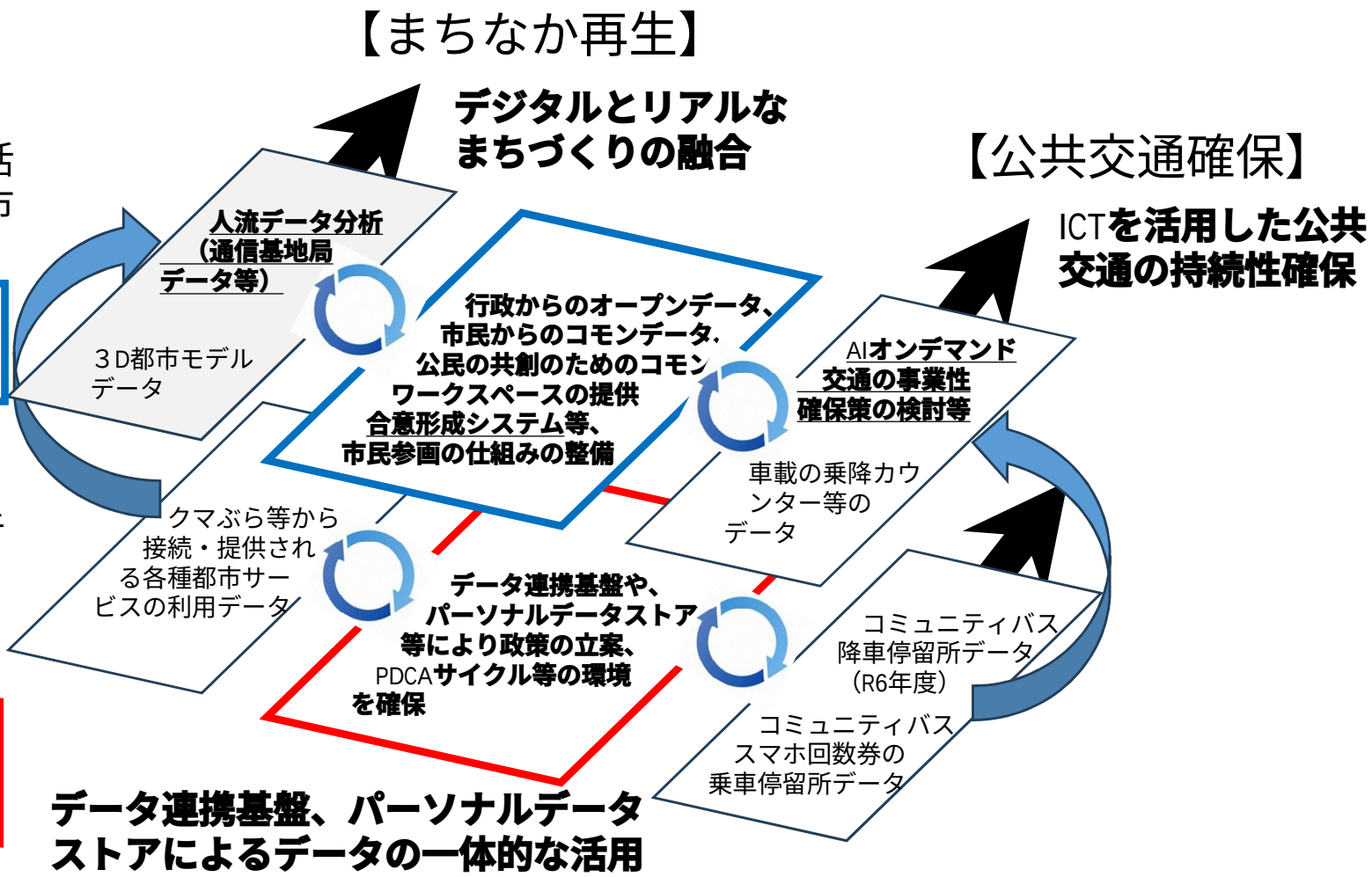
【目標①】既存のデータ活用によるまちづくりへの市民参画

データの可視化・オープン化等による市民の理解・活用の促進

【目標②】サービス利用者の了承により得られた（※）新たなデータの活用

（※）オプトイン方式

了承を得たデータについては共通ID等による一体的な分析を可能とする



■「暑さ対策パッケージ進化プラス事業化プロジェクト」（検討中）

（※）（仮）熊谷デジタル・デザイン企画第一号案

〇令和５～６年度に熊谷スマートシティが取り組む気象シミュレーションに応じた行動変容施策の提供は、市民の健康を守りつつ地域の活性化を図る面で先進的な挑戦であるが、快適な環境づくりを促す上では、さらに緑の効果をシミュレーションに取り込んでいくことが望ましい。
〇さらに当該手法は、理論、センサー技術などの事業化要素は揃っているが、**自治体のデータ活用協力への本気度、大学との連携の緊密さなどの要素が揃った場がなく、創業の可能性あり**。

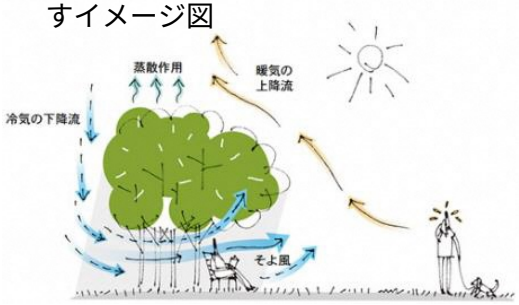
引き続いてのスマートシティとしての持続性確保の取組み

スマートシティのレベルアップとDX創業の連動を目指す

【要素１】測定データ分析技術
学術研究論文は充実・事業化は未開拓

緑地・街路樹等の作り出す快適性をシミュレーションに組み込む上では、「様々な時間」に「移動しながら」取得されたデータが有効。

（参考）樹木が風の流れを作り出すイメージ図



【成果１】熊谷市の暑さ対策スマートパッケージの進化を実現（埼玉版スーパーシティ事業の要望を想定）
【成果２】地元大学等に他都市に横展開（事業化）可能な実践ノウハウを蓄積

【要素２】スマホ連動型気象センサー
技術は普及済（画像は2017年の商品）
気象予報サービス業界では事業性の薄くなった既存技術を都市環境改善提案用データ取得技術として転用



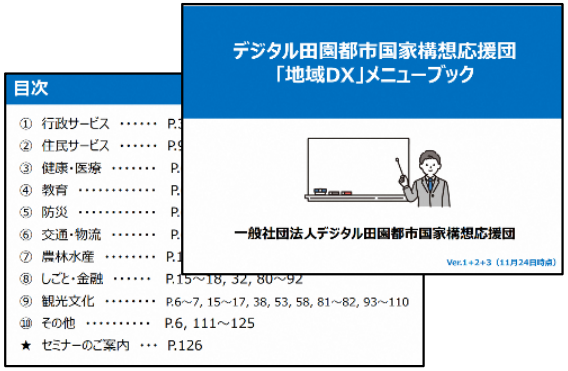
熊谷市がR6年度創設する産業DXふるクラ（注）による起業支援



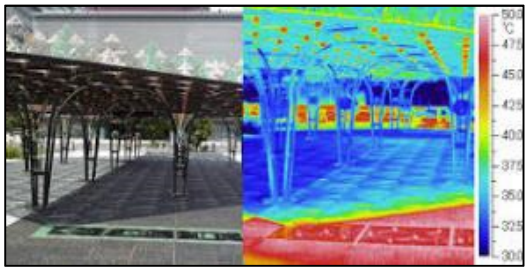
（注）ふるクラ：ふるさと納税型クラウドファンディングの略

【目標】DX創業第一号（令和７年度）

「都市環境」分野を「地域DX」メニューブックに打ち出し全国に発信



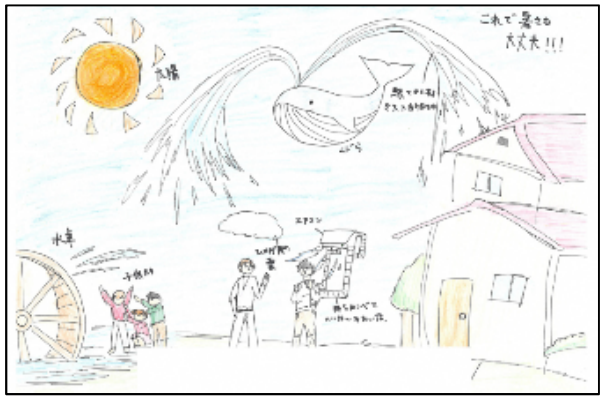
■「暑さに対応したまち」施策検討案



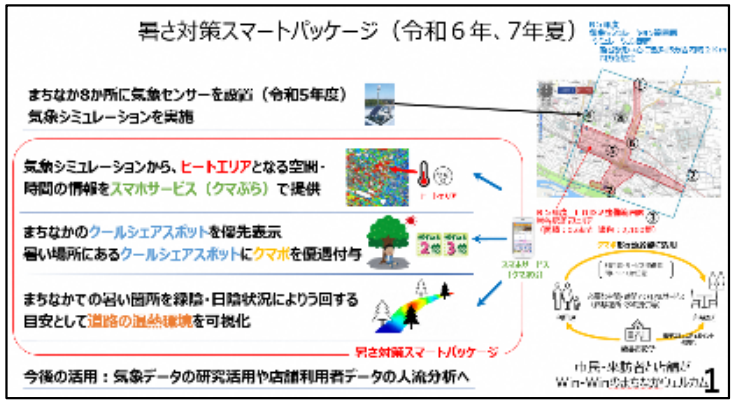




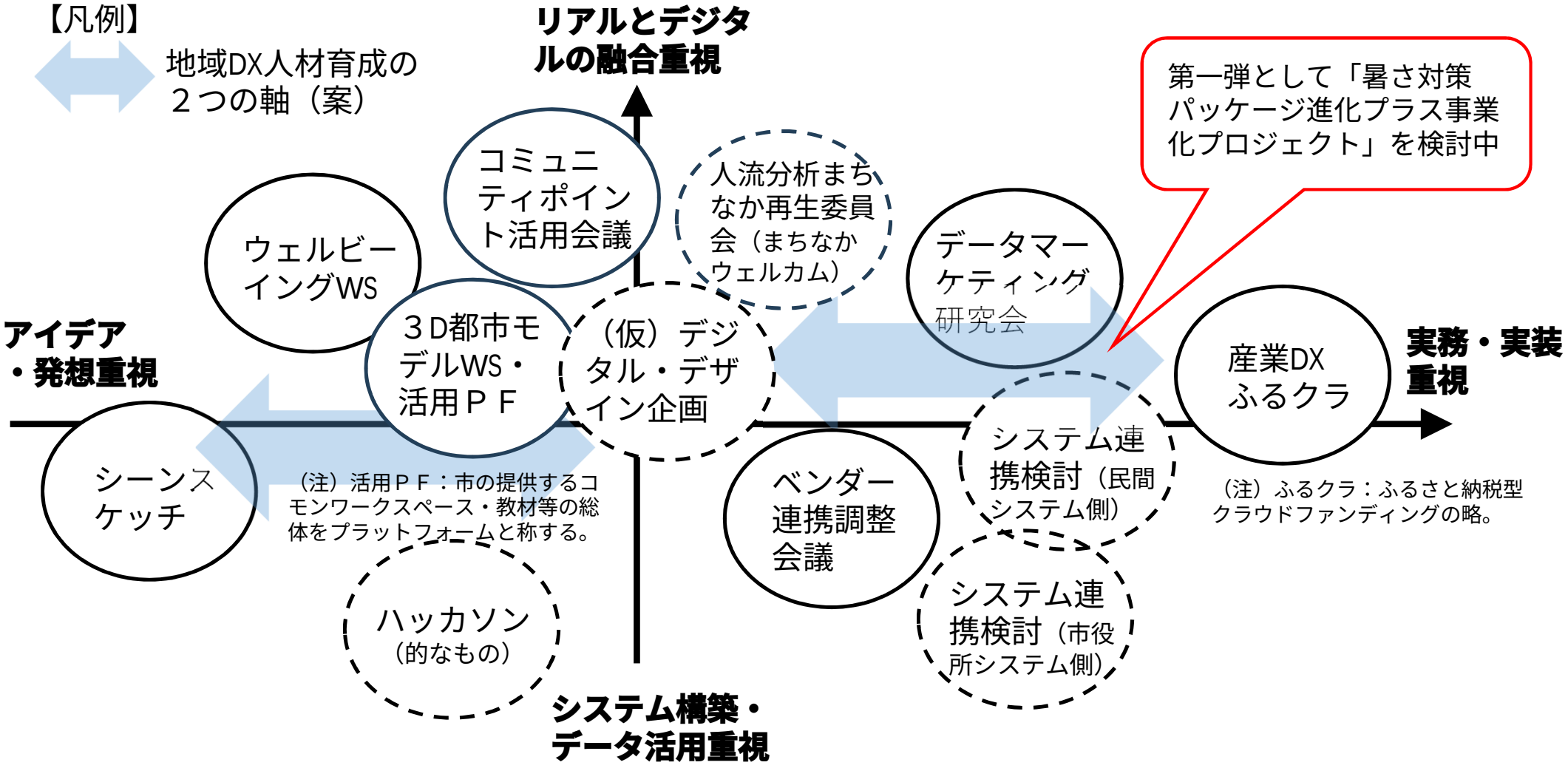
【水辺空間、日よけ、ミスト等の配置（仮称：スマートクールシティ）】【暑さ対策スマートパッケージ】（まちづくりとデジタルの連動）
〇暑さ対策スマートパッケージに取組みつつ、水辺体験空間、手入れの不要な通風型日よけ（フラクタル日よけ）、ミストなどをまちなか再生と連動して導入。
〇熊谷市における具体の取組み
・R4年度星川で水辺体験空間社会実験
・R5年度に通風型日よけの設置シミュレーションに着手予定
・R6年度に立正大学・アーキテクトと連携し、微気候の観測など熊谷の夏を涼しく過ごす「スマートクールシティ」企画に取組み
・R7年度の星渓園へのミスト導入について検討中
〇実装内容（案）
・WBビジョンとスマートシティ実行計画の双方の記載に基づき、リアルのまちづくりとデジタルの双方の取組みを連携させながら推進



〇（参考）R5年度シーンスケッチコンテストSF部門最優秀賞

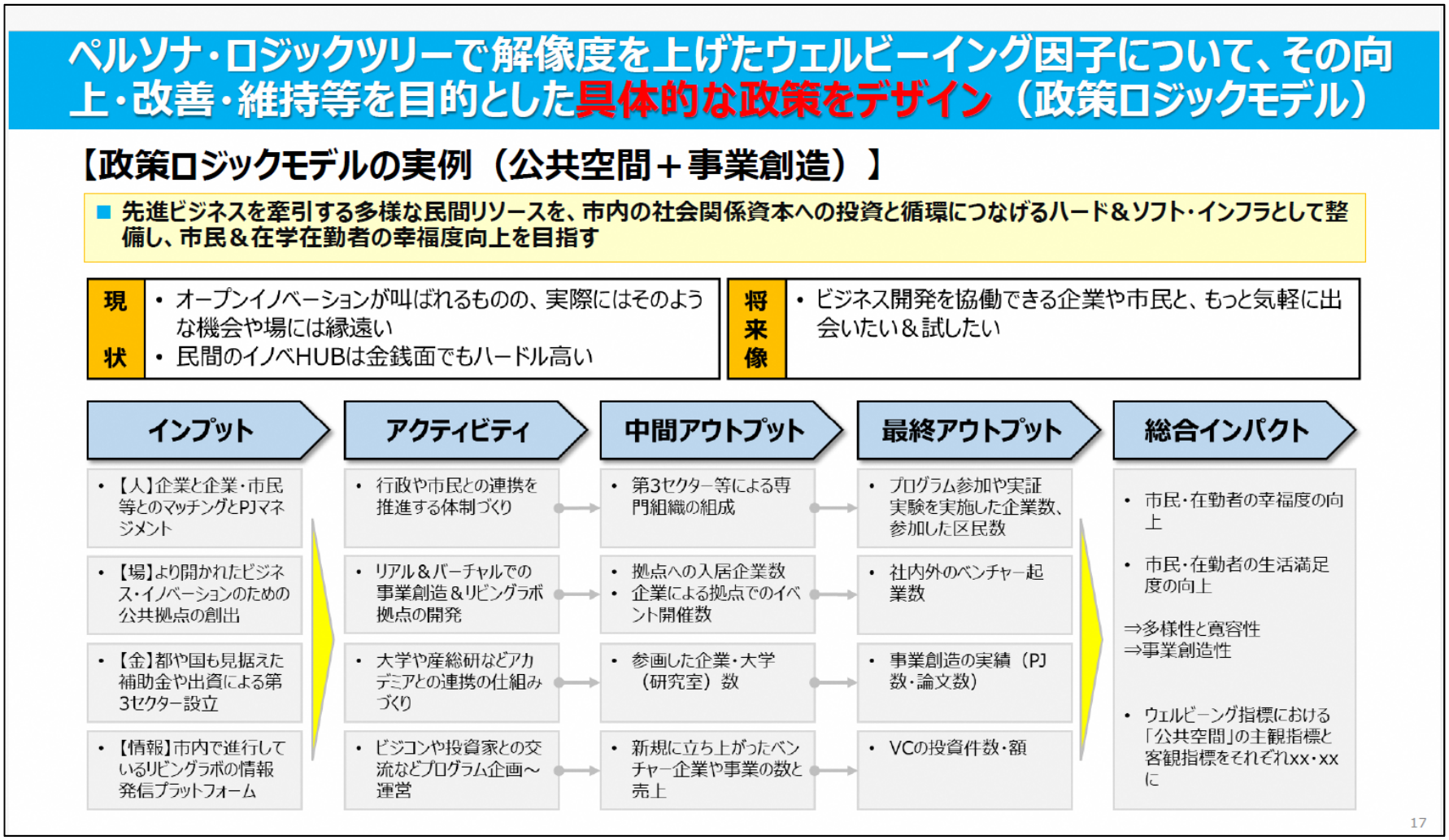


■熊谷スマートシティにおける公民連携の取組概要



■ロジックモデルの例

（注）スマートシティインスティテュートがウェルビーイング指標の活用説明で用いた資料から抜粋したものであり、そのまま熊谷市への適用を目指すものではない。



■SC分野アンケートとWB重点８項目（ビジョンマップ項目）の関係（検討経緯）

【1】スマートシティ分野に係るアンケート６項目（期待値･自由記述）

･モビリティ（交通･移動）
･暑さに対応したまち
･スポーツ
･産業創造
･ウェルネス（健康状態）
･安心･安全

【2】市民WSに向けて設定した心豊かな暮らしに係る８項目（シナリオ）の案

	LWC因子
1	**移動･交通**
2	**地域行政**
3	**子育て**
4	**初等･中等教育**
5	**防災･防犯 地域とのつながり**
6	**健康**
7	**雇用･所得**
8	**事業創造**

市民WS

■個人アイデア:40
･デジタル：20
･非デジタル：20
■グループアイデア:5

担当課ヒアリング

【3】市民WSのアイデアについて、担当課ヒアリングを実施。サービス･施策案を検討の上、ビジョンマップを下記8つに再分類した。

#	項目
1	**モビリティ（交通･移動）**
2	**暑さに対応したまち**
3	**安心･安全**
4	**スポーツ･健康**
5	**地域とのつながり**
6	**事業創造**
7	**子育て**
8	**学び**

（凡例）
緑：スマートシティ分野のうち市民の期待値が高いもの
黄：熊谷スマートシティとしての留意事項（暑さ対応の受け皿の可能性も含む）

担当課アンケートを基にシナリオ作成、担当課レビュー実施。
8つのシナリオは、LWCアンケート、スマートシティ施策を考慮して抽出。

（凡例）
青：自治体DX関連項目として設定

#2：暑さに対応したまち
市民WSでは、地域行政が討議対象にあたらなかった経緯も含め、暑さに対応したまちの施策を描くほうが好ましいと考えた
#3：安心安全
市民WSでは災害時のシミュレーションがアイデアにあり。スマートシティ分野の安心･安全と近しいと考えた
#6：事業創造
市民WSでは、雇用･所得、事業創造は主に農業･ビジネスチャレンジが主だったため、スマートシティ分野の産業DX･産業創造施策と近しいと想定
#8：学び　初等･中等教育に限定しない生涯学習等を含む内容として位置付け

■合意形成アプリ（Decidim）活用検討資料（加古川市事例）①

参加することではじめるまちづくり

https://kakogawa.diycities.jp/?locale=ja

decidim

Decidim（デシディム）は、市民などが意見やアイデアを寄せ、議論し、政策に結びつけていくためにスペイン・バルセロナで生まれたツールです。
加古川市はスマートシティを市民の皆さんと作るため、全国で初めて Decidim を導入しました。
ユーザ登録すれば誰でも参加できます。市民の皆さん、事業者の皆さん、行政でアイデアを出し合って、よりよいまちをつくりましょう。



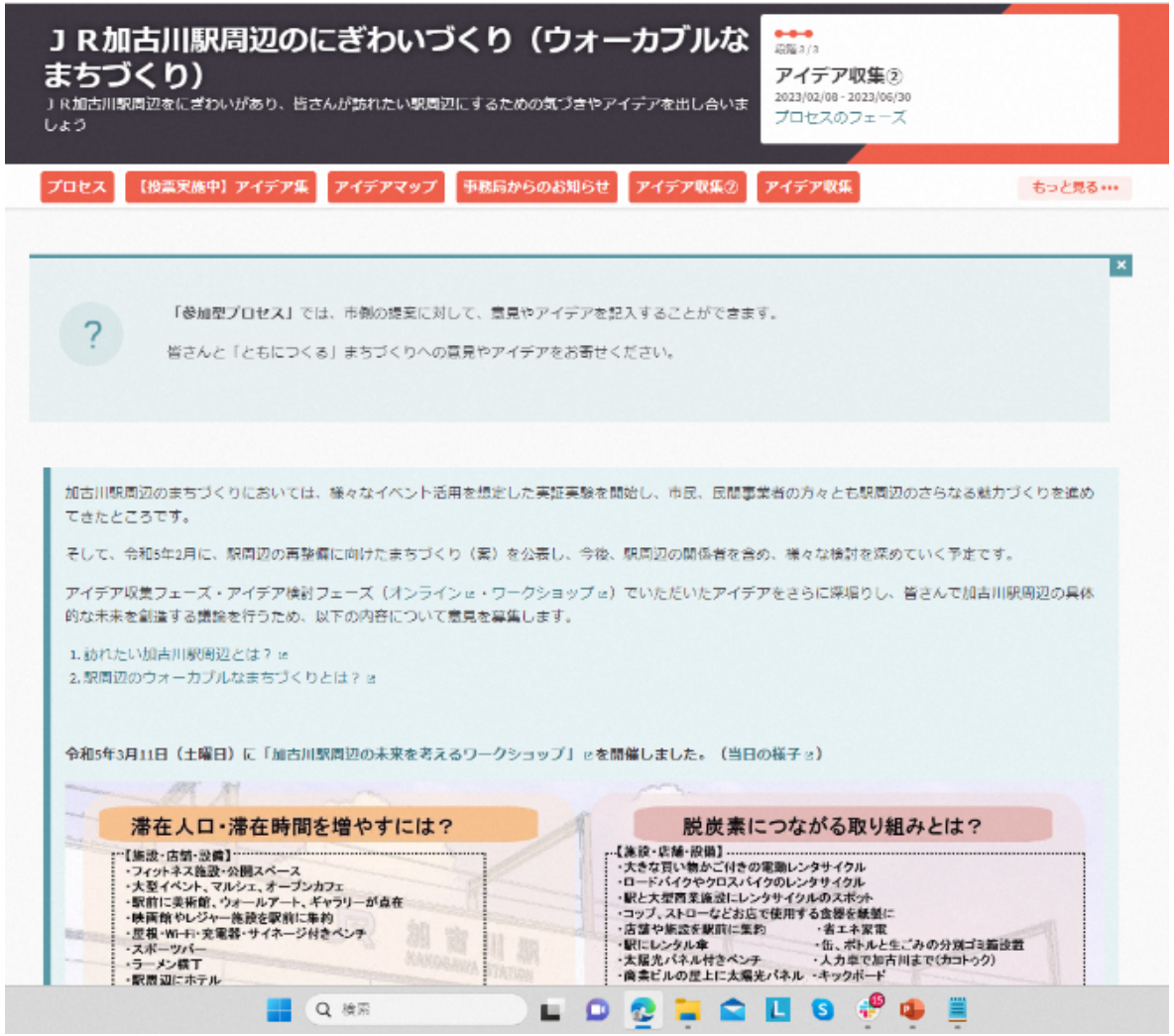
加古川市版Decidim は、みなさんの声を実際の政策に反映させるデジタル・プラットフォームです。

ここで誰もがきもちよく過ごせるよう、ルールを決めています。

- アイデアを出し合う場です。誰かのアイデアには「いいね」や「こうしたらもっとよくなるよ」と前向きな意見をしましょう！
- 安心して話してもらえるようにしています。登録には名前が必要ですが公開されません。ニックネームで投稿できます。
- 投稿の前に、「問題ないかな？」と、念のための確認をお薦めします。

※よりよいルールのアイデアも随時募集しています。どしどしご意見をお寄せください。

■合意形成アプリ（Decidim）活用検討資料（加古川市事例）②





■合意形成アプリ（Decidim）活用検討資料（加古川市事例）③





■（仮）「市民共創型３DGIS（三次元地理情報）プラットフォーム」における「コモンワークスペース」の設置

コモンワークスペースは会員となった市民に以下のメリットを提供し、「発信や提案」「二次元、三次元的に加工された図や画像を用いた表現」が容易になっていることを実感いただくと共に、公民連携により「仮のアイデアや仮の計画の共有・修正のスピードの向上」などが図られることを目的として熊谷市役所がWeb上でリアースの共有ワークスペースを提供するものです。

〇Web上に複数の地図が公表可能

- **リアースについて、提供元のユーカリヤ社は個人アカウントでの無償体験を提供していますが、その場合、公表できる地図は１件のみとなります。**
- **コモンワークスペースを利用いただくことにより、複数の地図を比較しながらの議論等も容易になります。**

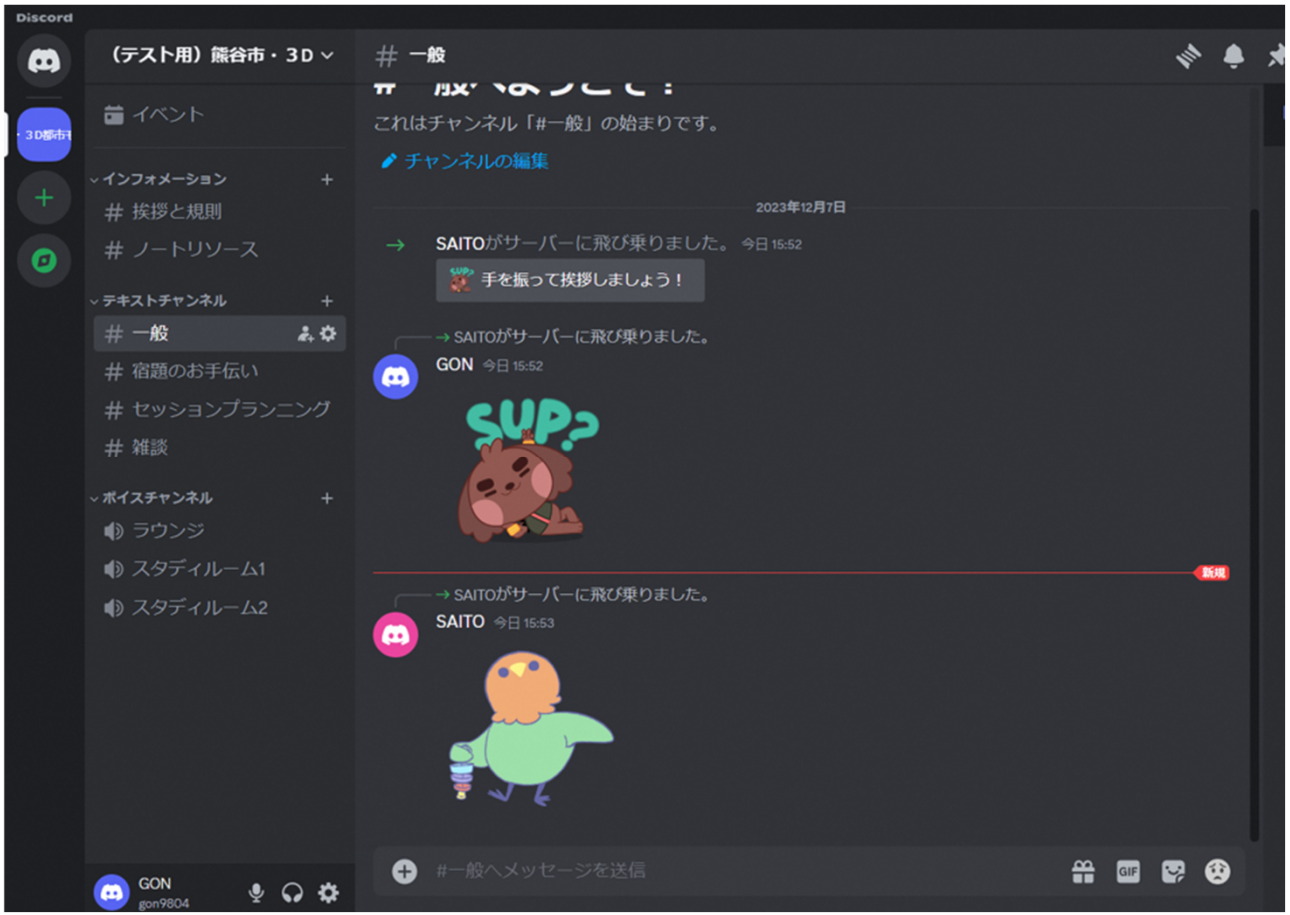
〇他のコモンスペース参加者との連携が容易

- **参加者は、他のメンバーのプロジェクトのデータを無断で加工しない等の会員規約に同意いただいています。逆に、合意があれば、共同で地図の加工に当たっていただけます。**
- **匿名でも活動することは可能ですが、氏名・メールアドレスを市役所に登録いただき、規約に従っていただけない場合は退会する措置を取りますので、安心して活動していただくことが可能です。**

- **参加者同士のコミュニティとしては、Discordにおいて、招待制のサーバーを設置することを検討中です。**

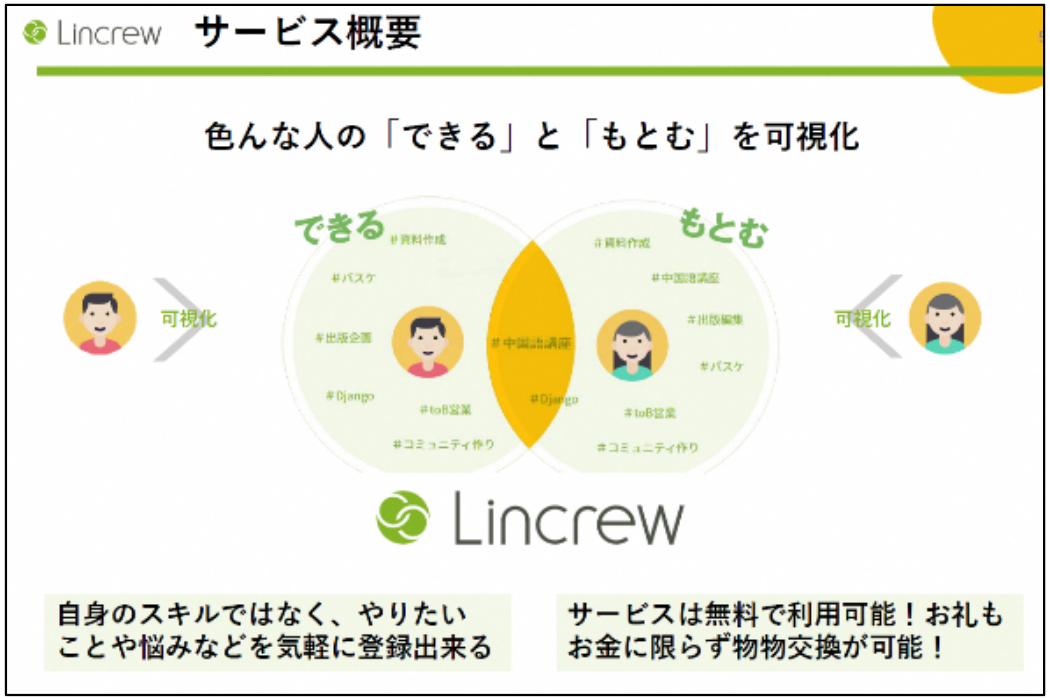
■チャットアプリ（Discord）の画面の例）

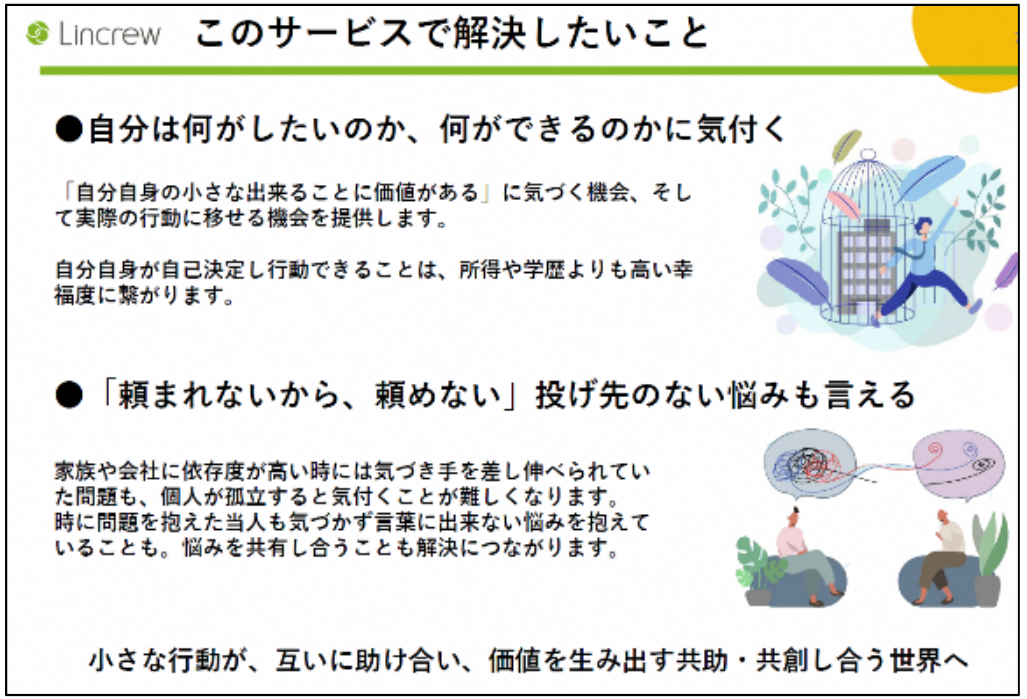
Slackとの大きな差異として、個人のメールアドレスが表示されず、メンバー相互の連絡は、掲示板に書き込むか、アプリを通じてダイレクトメッセージを送る方法に限られている点が挙げられる。
このような一種の匿名性によって、**知り合いでない方とも安心感をもって活発な意見交換が可能**であるとみられ、熊谷市がWebGISに関して提供するコモンワークスペースのコミュニティや、シーンスケッチの先のリビングラボ的なWeb空間として用意したい、Webコミュニティラボでの活用を検討中。



■コミュニティポイントの活用に向けたマッチングアプリの活用（検討中）

市民相互の「わたす」機能の活用促進に向け、「して欲しいこと」「できること」を共有できる民間Webシステムとの連携試行を検討中。





⑵　熊谷市公民連携まちづくり実践方針について
別添資料

熊谷市公民連携まちづくり
実践方針（案）

令和６年２月　日

目次

１．公民連携まちづくりに取り組む背景
２．公民連携まちづくりに取り組むプロセスと目指すべき仕組み
３．公民連携まちづくりに取り組む目的、重視する点等の設定
４．【準備中】（参考）星川エリアにおける実践事例
　　～星川ビジョン案中間報告（令和５年１２月）を踏まえた公民連携まちづくり実践方針の必要性の整理等～

１．公民連携まちづくりに取り組む背景

はじめに

- 今後、社会保障費の増大や、インフラ更新費用などが増す一方で、働く世代の減少などにより、財政状況は一層厳しくなることが予想されます。こうした状況を克服し、将来にわたって暮らしやすく、魅力あるまちづくりを進めるためには、公的負担の抑制、地域経済の循環、市民サービスの水準向上が必要です。
- そこで、市民や民間の皆さまと共にまちづくりを進めていくための考え方として「公民連携事業」の導入に取り組みます。
- 公民連携事業は、対象となる事業や手法、連携先などが様々考えられます。最適な方法を選択しながら、市民や民間の皆さまと共に、熊谷を一層魅力あるまちにしてまいります。

民の活躍が求められる背景 ～なぜ今、公民連携か？～①

- 市民のライフスタイルや意識は、「量」から「質」の重視へと変化しつつあり、また多様化しつつあります。
- 現在の熊谷のまちは、まちなみが老朽化し、その魅力の低下とともに子育て世代を中心として人口が流出しています。人口の減少により、今後次々と更新時期を迎える施設やインフラの更新費や社会保障費の増大に対応できる財源が不足するだけでなく、そのことがさらに地域経済を低迷させ、エリアの価値を低下させる・・・負の連鎖 に陥ることも考えられます。
- 複雑に絡み合う課題に立ち向かうには、金銭的にも人的にもノウハウ面でも、公だけでは限界にきているといえます。しかし、その分野や事業に長けた主体が存在していたとしても、それを発掘し、受け入れる環境が整っていません。早急に、負の連鎖を断ち切る発想の転換が求められます。

民の活躍が求められる背景 ～なぜ今、公民連携か？～②

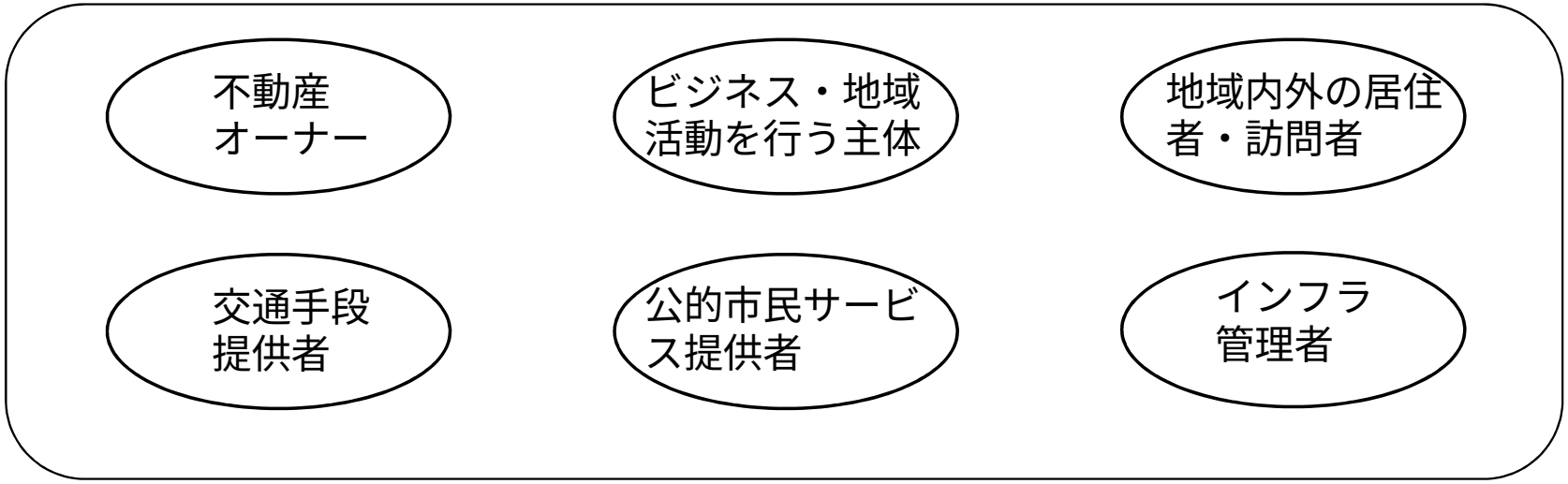
- 公民連携の取組の対象として、熊谷市ではまちなかの再生に取り組みます。
- まちなかは熊谷市の特色である様々な交通手段が接続する結節点であり、熊谷市全体を維持する上で重要なエリアと考えられます。
- また、各種のアセットがまだ残っており、地域の企業や人材をに活躍の場を提供することにより、雇用や新たな事業が生まれ、“ 地域内でおカネがまわ る“ 仕組みを構築できる可能性があります。
- また、公共的精神を持った民間団体等と連携し、公共のアセットを活用することにより、民間のノウハウを活かし、質の高いサービスあるいはウェルビーイング的な自己実現等につながる環境を市民に提供できる可能性があります。

２．公民連携まちづくりに取り組むプロセスと目指すべき仕組み

「打席に立つつもりがある」ことの重要性

〇主体の性質に応じた「まちづくりの打席」についての議論を重視。
〇どのような主体でも「まちづくりの打席」に立てる機会はある。
〇まず、打席に立つつもりのある関係者同士が連携し、取組を始めることが重要。
〇立場や組織名でなく、「打席に立つつもりがある」ことを重視。（当事者意識の薄い様子見や下請けは「打席に立っている」ことにならない。）

【熊谷市の公民連携まちづくりに関わる主体の例】



公民連携まちづくりのプロセス

～以下のスマートシティ・データ活用まちづくりのプロセスは、システムやデータの重要性が異なるのみで、公民連携まちづくりのプロジェクトにおいても同様のプロセス・スキルを意識する必要あり～

■持続サイクルの上で必要な９つのスキル（随時更新）



① スマートシティにおいて**【目指すべき価値の調整・共有】**を行うスキル
② 必要な**【オープンガバナンスの場を設定】**し、得られた**【アイデアやどのような役割が必要かについての整理】**を行うスキル
③ 既存のシステムやデータを見渡し、**【どうすれば実現できるかを考える】**スキル
④ 実現のための仮説を、**【（必要なベンダー・有識者等の協力を得て）実行可能な内容に落とし込む】**スキル
⑤ **【関係者と業務全体の要件・リスクを定義】**し、**【期間内に業務の成果が得られるようにマネジメント】**するスキル
⑥ **【個別のタスクの期限と要件の兼ね合いを管理】**し、同時並行的に業務手法を改善したり、段取り管理の中間目標を設定するスキル
⑦ 政策のPDCA、EBPM等に**【どのようなデータが必要かを考え、取得方法や分析・活用手法を整理】**するスキル（市役所・大学等の政策企画関係者向けを想定）
⑧ **【データを用い、まちづくり等の課題をステークホルダーに伝えて理解を促す】**と共に、**【将来像や解決策の立案にステークホルダーを巻き込んで公民連携のまちづくりを促進】**するスキル
⑨ 民間も含めた熊谷スマートシティの好循環のために**【地域（市役所内を含む）に必要なDX人材像・スキルを整理し育成手法を検討】**するスキル

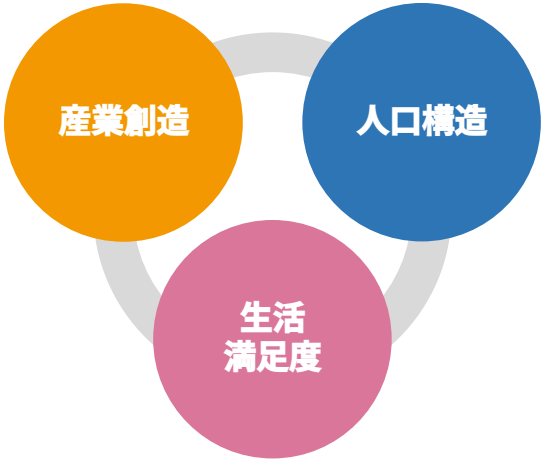
公民連携まちづくりで目指すべき仕組み

熊谷市の目指す持続可能な地域をつくるエコシステム

（産業ＤＸに係る未来発見・地域づくり構想）

産業ＤＸや公民連携により、産業を創造し、生活満足度を高め、人口構造を変えていくシステム

　システムから得られるデータの活用や、事業者、大学との連携などの公民連携の取り組みなどから新たな産業の創造を目指す。
　また、データを分析し市民ニーズに即した施策を行うことで生活満足度を高め、関係人口を含めた人口増加、転出抑制を図ることで、市民はもとより市外のファンも誇りに思える持続可能な地域づくりを行う。



新たな事業が生まれ、生活の満足度が上がり、人口が増える
『地域の未来』をつくる

３．公民連携まちづくりにおける目的、重視する点等の設定

目的と手段

【目的の設定】

熊谷市では、当該エリアに住まい、学び、働き、訪れ、期待する方たちと、当該エリアの目的を描き、さらにご意見をいただいて「ビジョン」としてブラッシュアップを図っていくまちづくりの取組を推進します。

【手段】

設定された目的・ビジョンを実現するために、「民間・公共の希望者がまちの一員としてまちづくりの打席に立てる機会」を、あらゆる手段を講じて増やすことに取組みます。

公民連携まちづくりに向けて市役所の政策企画方針（コンセプト）として重視する点

以下の点を重視しつつ、市役所の所管するインフラの管理、市民サービス等の面から、民間が活力を発揮できるように努めます。

① コミュニティ
② 持続性
③ （まち、ひとの）ストーリー

（注）左記の政策企画方針（コンセプト）は「熊谷スマートシティ　トータルブランディング方針」と連動。

公民連携まちづくりに向けて市役所として重視する基礎的なストーリー

「暑さ対策日本一」を掲げ、また「スマートシティ宣言」を行っている都市とし設定した以下の基礎的なストーリー、及び後に掲げる「特記事項」を踏まえたまちづくりに取組みます。

（ストーリーは随時修正・追加を検討します。また、エリアにおいて独自のストーリーを設定することも可能です。）

【ストーリー１】スマートクールシティへの市民参画

【ストーリー２】データ活用によるまちなかウェルカム、コンパクト×スマートシティの取組み

（注）上記の基礎的なストーリーは「熊谷スマートシティ　トータルブランディング方針」と連動。

【特記事項１】公民連携まちづくりと熊谷スマートシティとの連動のメリット①

熊谷スマートシティでは、スマートシティ宣言(令和５年７月)の「デジタルと人の力で社会を前に進める」考え方の下、以下の内容に取り組んでいくことを「熊谷スマートシティトータルブランディング方針」「同　実行計画」に定めています。
以下の多くの内容は、これからの社会において、市民の誰もが自分なりの暮らし、生業、コミュニティ活動などを選んで満足度の高い生活を送っていく上で欠かせない要素となると考えており、熊谷スマートシティの提供する環境をぜひ活用いただきたいと考えています。

【熊谷スマートシティの取り組み例】

◯「クマぶら」などを通じて、市内の各種サービスの内容を位置情報と共に分かりやすく提供することに取り組みます。

◯デジタル地域通貨「クマPAY」システムの無償での提供、コミュニティバスの回数券のスマートフォンでの利用などにより、サービス利用者、提供事業者双方の利便性の向上に取り組みます。

【特記事項１】公民連携まちづくりと熊谷スマートシティとの連動のメリット②

◯Web地図を活用し、市内のまちづくりの取組みを分かりやすくお伝えすることに取り組みます。

◯希望される方に向けて、Web地図ツールと、市役所がまちづくりの検討に用いているデータの提供に取り組みます。(原則として個人情報を含まないデータに限ります。）

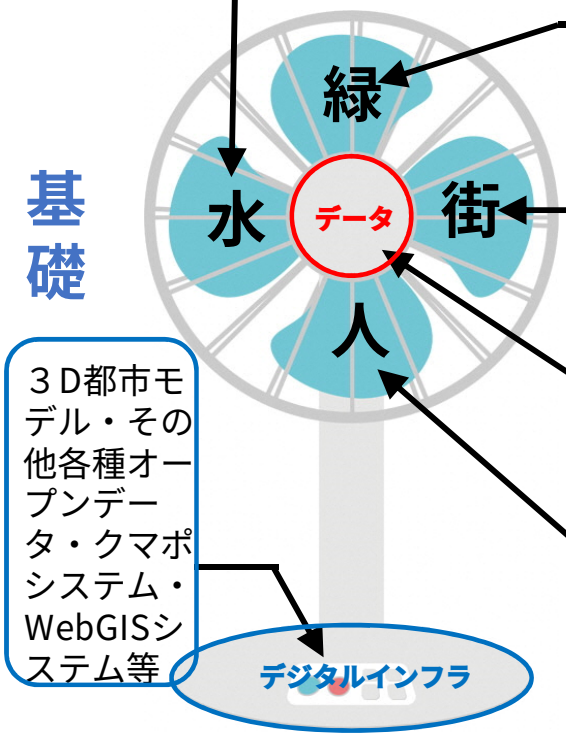
◯時間、場所に縛られずに市民同士がご意見を交わす機会となるWebコミュニティの形成に取り組みます。

◯換金性のないコミュニティポイント「クマポ」による、新たなつながりの形成に取り組みます。

◯デジタル技術によるサービスを受けることに苦手意識などによる格差が生じないよう、講習の開催などに取り組みます。

◯その他、多様な市民のアイデアを実現しやすいシステムやデータ、その運用の仕組みなどを含めた環境づくりに努めます。

■スマートクールシティへの市民参画ストーリーを構成する要素



星川の水辺空間（まちなか再生の取組み）
（少し遠いが）荒川公園周辺かわまちづくり

都市緑化の考え方
（少し規模が極端だが）都市構造

クールシェア（５店・公共施設・スポット）
（公共交通利用が前提）
まちの施設（ミスト・日よけ）
街路樹　等

軸

気象センサーデータ（詳細化）
気象シミュレーション
データ可視化（WebGIS等）

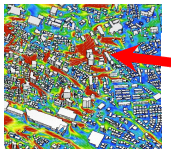
関係ツール・運用アイデア
（観測ツール、情報発信ツール、涼感グッズ、雪くま連携アイデア等）

暑さ対策スマートパッケージ（令和６年、7年夏）

まちなか8か所に気象センサーを設置（令和5年度）
気象シミュレーションを実施



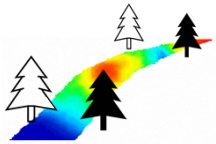
気象シミュレーションから、ヒートエリアとなる空間・時間の情報をスマホサービス（クマぶら）で提供



まちなかのクールシェアスポットを優先表示
暑い場所にあるクールシェアスポットにクマポを優遇付与



まちなかでの暑い箇所を緑陰・日陰状況により回する目安として道路の温熱環境を可視化

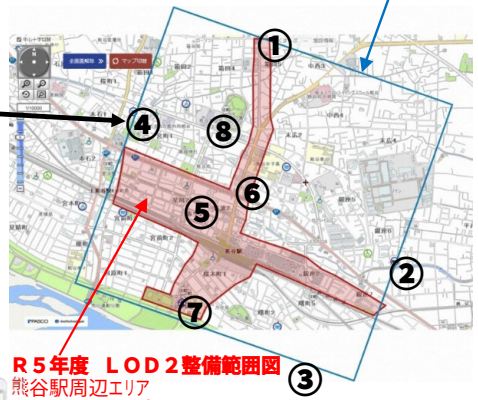


スマホサービス（クマぶら）

暑さ対策スマートパッケージ

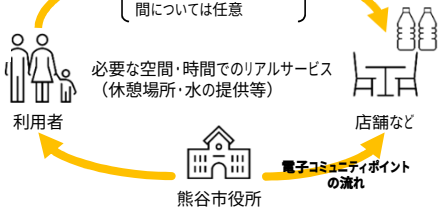
今後の活用：気象データの研究活用や店舗利用者データの人流分析へ

Ｒ５年度
気象シミュレーション範囲図
・シミュレーション範囲
熊谷駅を中心に徒歩15分圏内約２Ｋｍ四方を想定



Ｒ５年度　ＬＯＤ２整備範囲図
熊谷駅周辺エリア
（面積：0.6㎢　建物：2,100棟）

クマポを行動変容に活用



市民・来訪者と店舗が
Win-Winのまちなかウェルカム

【特記事項２】公民連携まちづくりと交通まちづくりの連動の必要性①

熊谷市では、公共交通網の環境が厳しさを増す中で、熊谷市地域公共交通会議における「地域公共交通計画」の検討などの場で、以下の方針を設定しています。
平成26年にコンパクト+ネットワークのまちづくりに向けた都市・交通の改正法が施行されてから十年、交通に係る課題の深刻化と、解決策となりうる各種技術の発展のバランスは、予断を許さない状況です。
熊谷市においては、個別の各エリアにおけるまちづくりビジョン等との連動の観点を重視しつつも、以下の整理の下、交通ネットワークのセーフティネットとしての側面と、人流確保による地域の活力維持の側面の両面において、対策の導入時期を失することのないよう、調整・実行に取り組みます。

【交通ネットワークのセーフティネットとしての側面と、人流確保による地域の活力維持の側面の整理について】

◯熊谷市はこれまで近隣自治体に比べて密度の高い路線バス・コミュニティバスの路線網を維持してきました。

【特記事項２】公民連携まちづくりと交通まちづくりの連動の必要性②

◯しかし、運転士の人数の不足により、業務環境を確保しつつ、これまでどおりのサービスを提供することは困難な環境になりつつあります。

◯熊谷市では、この事により、「通院などに交通手段が必要な方へのサービス提供」（セーフティネットの側面）と、「自分らしく暮らす行動が制約されることでの地域の活力の低下」（地域の活力維持の側面）の両面の課題が生じるものと考えています。

◯具体的な対応としては、前者について、**①ICTを活用して必要な方へのサービス確保に取り組む**と共に、後者について、**②まちなかを自転車や徒歩を含む様々な交通手段の結節点としてとらえ、市域全体のコンパクト&ネットワークの取り組みと連動しながら、活力のある地域づくりに取り組む**方針です。

◯地域全体の交通ネットワークとコンパクトシティの両立による持続的な地域づくりは喫緊の課題であり、また取組みに影響を与える規制や技術の変化の速度が近年上がっているため、当面の間、上記①②の両面で積極的な情報収集、検討、実証などに取り組むべきと考えています。

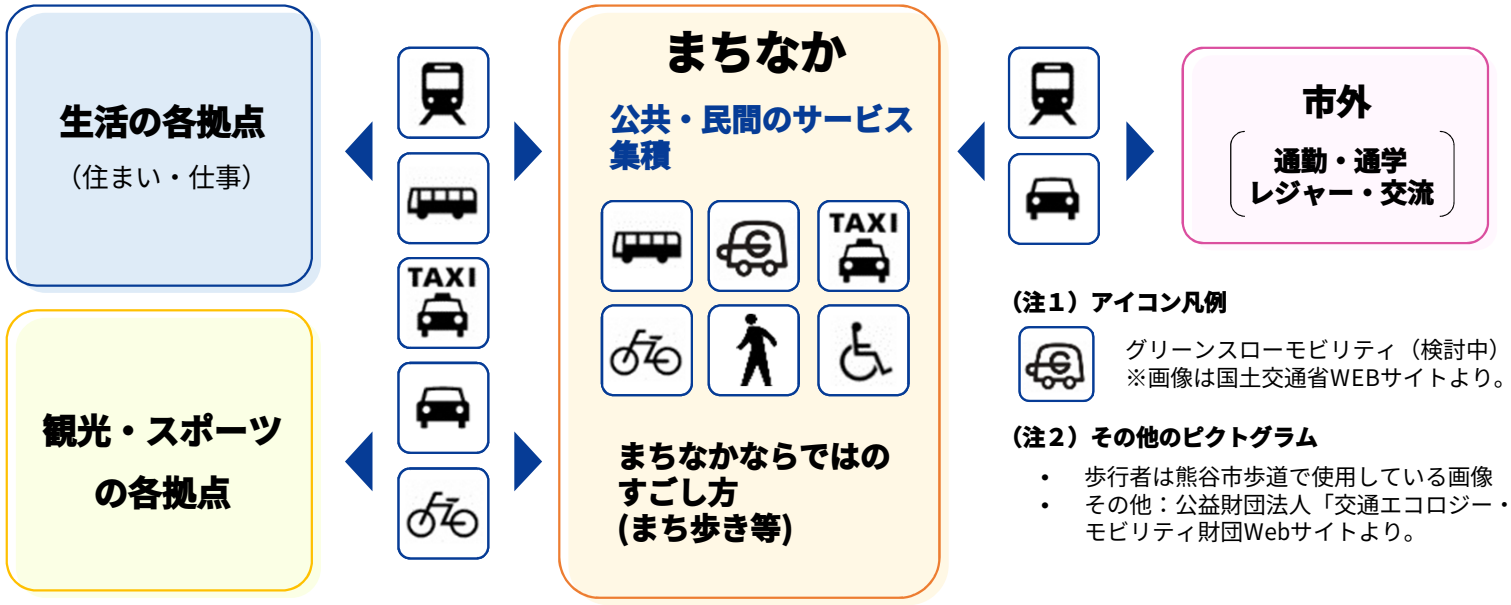
◯なお、検討にあたっては、生活の中での徒歩による移動の健康の維持に与える効果等についても、考慮するものとします。

■データ活用によるまちなかウェルカムのストーリー（1）

（人流データ活用まちづくりについて）

～まちなか再生の切り口からのアプローチ～

「まちなか」から見た人流のイメージ



（注1）アイコン凡例

グリーンスローモビリティ（検討中）
※画像は国土交通省WEBサイトより。

（注2）その他のピクトグラム

- 歩行者は熊谷市歩道で使用している画像
- その他：公益財団法人「交通エコロジー・モビリティ財団Webサイトより。

■データ活用によるまちなかウェルカムのストーリー（2）

（まちなかでの体験創造・実証の場の検討）

生活の各拠点（住まい・仕事）との対流

観光・スポーツの各拠点との対流

市外との対流（通勤・通学・レジャー・交流等）

キーワード　**『まちなかウェルカム』**

まちなかへの人流
まちなかでの人流
まちなかからの人流

リアル

魅力あるサービスの提供
例：新規出店、店舗改善

＋

歩きやすい・憩える空間づくりと移動手段の確保

×

デジタル

オープンデータ化、デジタルを活用した情報提供

＋

スマートシティで取り組む各種市民サービスとの連携

連携しての効果発揮のためには、人流データを活用した実施内容の検討・検証が不可欠

⑻　産業DXの取組について
・けやき共創パートナーズ（※）の取組（予定）
別添資料

（※）「日本一アツい産業DXプロジェクト」採択事業者

熊谷市産業 DX 推進ふるさと納税型 CF 活用事業第一弾
「日本一アツい DX 人材育成プロジェクト」
クラウドファンディング開始
産業 DX に協賛・後援企業も同時募集

【募集期間】2023 年 12 月 15 日～2 月 13 日／クラウドファンディングサイト「ふるさとチョイス GCF」にて募集

産業支援する団体、（一社）けやき共創パートナーズ（代表理事:栗原志功／埼玉県熊谷市）は、熊谷市産業 DX 推進ふるさと納税型クラウドファンディング活用事業第 1 弾として、11 月 24 日（金）に事業認定を行われました。
VUCA 時代により社会環境が大きく変化し、農業、工業、商業、サービス業、その他の産業がさまざまな課題に直面しています。
そんな課題を解決するためにはどうしたら良いのか？パーソナルコンピュータの父とも呼ばれるアラン・ケイの言葉で"The best way to predict the future is to invent it.（未来を予測する最良の方法は、それを発明してしまうことだ）とする。そんな未来を担う人を共育しませんか？その運営資金をクラウドファンディングサイト「ふるさとチョイス GCF」にて募集を開始しました。産業 D X を共に創るため、同時に協賛・後援企業・団体・個人を募集します。



熊谷産業 DX プロジェクト

熊谷市産業 D X 推進ふるさと納税型クラウドファンディング第 1 号認定プロジェクトとは？

熊谷市内事業者のデジタルトランスフォーメーション（以下、DX）を応援する取組や、自社の DX を進める取組を、ふるさと納税型クラウドファンディングで支援するため、2023 年 10 月 2 日-10 月 31 日にて募集が行われました。
熊谷市産業 D×推進ふるさと納税型クラウドファンディング活用事業として第 1 号プロジェクトとして、『日本一アツい事業"産業 D X 人材育成講座"』が認定されました。
本プロジェクトは熊谷市内外産業振興を目的とし、DX を推進するための人材育成及びコミュニティの生成を行うプロジェクトです。



<お問い合わせ先>
一般社団法人けやき共創パートナーズ広報担当原田 TEL：048-528-0101MAIL：info@kkp.or.jp

日本一アツい事業”産業 DX 人材育成講座”とクラウドファンディング概要

プロジェクト名	『日本一アツい事業”産業 DX 人材育成講座”』（**https://kkp.or.jp/**）
クラウドファンディング実施期間	2023 年 12 月 15 日（水）～2024 年 2 月 13 日（火）
受付窓口	クラウドファンディングサイト「ふるさとチョイス GCF」http://www.・・・・・・・・・
目標金額	1,000,000 円
その他	本プロジェクトにおける詳細は Web サイトにて発表します。

熊谷市産業界における現状の課題

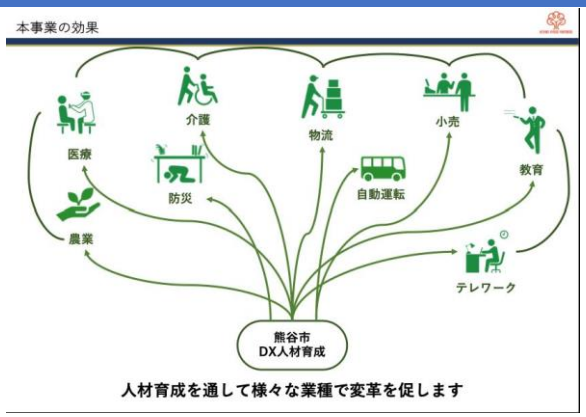
熊谷市の産業の現状として、本社移転数、事業所の撤退、廃業・事業停止数の増加が加速しています。
現在、熊谷市の産業における課題として、既存事業者の活性化、他地域から事業者流入、創業機運醸成が求められると考える。



D X（今回の施策）でどのような解決するのか？

1. DX 取組自体が低浸透（県内取組率推測 5 %程度）
   →生産性向上となる IT ツール使用法の教育
2. DX 人材教育が進まず DX 人材が不足
   →DX 支援を実行できる人材の育成推進
3. IT ツールの使用法が不明瞭で定着化せず、逆にコスト高
   →経営・事業課題を解決・伴走支援できるコミュニティ組成

本プロジェクトは、サービス提供、支援体制などを異なる企業が得意分野を生かして協力するスキームとした水平分業体制で実施します。



『日本一アツい事業”産業 DX 人材育成講座”』とは？

熊谷市（以下、本市）はご存知の通り、2018 年 7 月 23 日に最高気温 41.1°を記録しました。
本市は暑さで知られるまちですが、その理由として、地形的な理由の他に、厚い、熱い、敦い、そして、篤い人がいるからに他なりません。積み上げてきた歴史、助け合いの精神の伝統を活かした未来の担い手育成を行い、「日本一アツい人が集う街」にしたいと考えています。

■〈産業 DX 育成講座運営〉

『日本一アツい事業産業 DX 育成講座』では、“一緒に”をキーワードにして、これから DX を導入する、または導入したばかりで、何から始めたらよいかわからない企業・事業者を対象とした「産業 D X 人材育成講座」を実施する。D X 化が自走する組織作り、D X を活用した経営、マインドセットなどを身につける人材育成講座と D X に必要なスキル、業務を想定したＩＴツールの活用など身につける生産性向上講座を実施する。



<お問い合わせ先>
一般社団法人けやき共創パートナーズ広報担当原田 TEL：048-528-0101MAIL：info@kkp.or.jp

■ ＜地域密着型 DX コミュニティ運営＞

DX 人材が地域に定着し、DX 人材を共通資産として地域企業が利用でき、中小規模事業者に DX 定着化を図れる体制の構築に繋げていきたい。

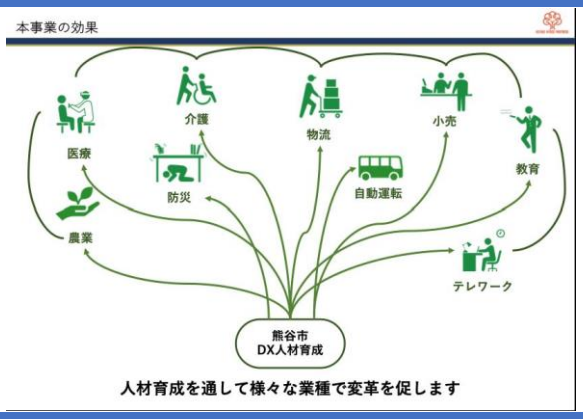
これから DX を導入する、または導入したばかりで何から始めたらよいかわからない中小規模事業者を対象とします。同じような悩みを抱えた受講生同士のグル-プワークも設けており、互いに相談することで、新たな気づきやつながりをつくることを目的とした地域密着型コミュニティを組成していきます。



本事業の効果

熊谷産業 D X 人材育成事業により、様々業種で変革を促します。

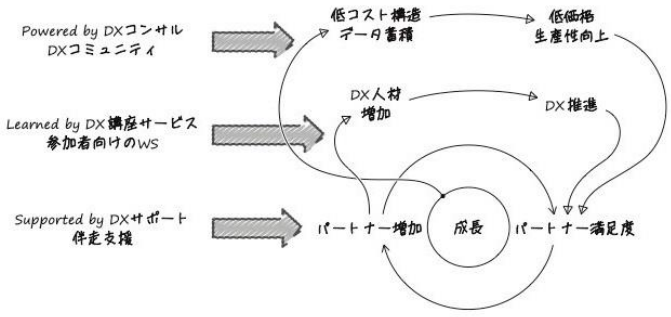
○未来の担い手創出
○市民生活利便性向上
○元気で魅力的な産業の創出
○人が集い活力ある産業が育つまち
○地域経済や雇用に好影響
○市域外から資金を呼び込み、又は、市域内に資金を留め好循環させられる



熊谷フライホイール−DX 人材における目指す方向性

DX 人材育成の仕組み作りこそが、産業 DX の要諦となる。DX 人材育成事業は実施主体が計画と実行を行い、自己検証することで持続性の達成を目指していきます。本事業の成長はすなわち、人材の成長が産業の成長に寄与するものと定義します。

→産業 DX による“熊谷の魅力づくり”





＜お問い合わせ先＞
一般社団法人けやき共創パートナーズ広報担当原田 TEL：048-528-0101MAIL：info@kkp.or.jp

寄付者の皆様へ

熊谷市長小林哲也コメント



熊谷市は、令和５年７月４日、「熊谷スマートシティ宣言」をいたしました。これは、デジタルと人の力で、社会を前に進めていく「熊谷スマートシティ」の実現に向けて取り組むことを表明したものです。

私は、スマートシティの実現には、自治体側のＤＸを進めるのに合わせ、民間の、とりわけ産業界のＤＸを進めることが必要と考え、新たに「産業ＤＸ推進事業」を実施することといたしました。この事業は、市内事業者のＤＸを応援するプロジェクトを募集・審査の上、認定したものをＧＣＦを活用し支援するものです。

このたび掲載しました、一般社団法人けやき共創パートナーズによる「ＤＸ推進人材育成講座@熊谷」は、本市初のＧＣＦプロジェクトとして、ＤＸ推進に大いに貢献いただけるものと期待しておりますので、是非本プロジェクトのご支援をお願いいたします。

一般社団法人けやき共創パートナーズについて

令和５年４月には、産官学金連携により企業支援と伴走を目指し、一般社団法人けやき共創パートナーズを設立致しました。本法人の設立により地域の課題発見と解決を加速させていくつもりです。

【会社概要】

KEYAKI KYOSO PARTNERS

社名：一般社団法人けやき共創パートナーズ
本社所在地：埼玉県熊谷市筑波 3-202 ティアラ 214 階
代表理事：栗原志功
事業内容：

① 地域に根差した DX 推進コミュニティ
② 産官学金連携を基軸とした事業者課題解決支援
③ 施策達成に向けた育成、伴走支援等のコンサル

設立：令和５年４月 12 日
HP：https://kkp.or.jp/



＜お問い合わせ先＞
一般社団法人けやき共創パートナーズ広報担当原田 TEL：048-528-0101MAIL：info@kkp.or.jp

日本一アツい
DX人材育成プロジェクトへ
ご支援お願いします！



寄付募集期間 2023年 12/15～ 2024年 3/13

熊谷市の課題をDXで解決すべく
産業DX人材育成講座を開講します！

VUCA時代と称されるように物事の不確実性が高く、将来の予測が困難な昨今、社会環境が大きく変化し、農業、工業、商業、サービス業、その他の産業がさまざまな課題に直面しています。そんな課題を解決するためにはどうしたら良いのか？パーソナルコンピュータの父とも呼ばれるアラン・ケイの言葉で”The best way to predict the future is to invent it."（未来を予測する最良の方法は、それを発明してしまうことだ）とする。そんな未来を担う人を共育しませんか？その運営資金をクラウドファンディングサイト「ふるさとチョイスGCF」にて募集を開始しました。産業ＤＸを共に創るため、同時に協賛・後援企業・団体・個人を募集します。

ガバメントクラウドファンディング（GCF）とは

ガバメントクラウドファンディングとは、ふるさとチョイスがふるさと納税制度を活用して行うクラウドファンディングです。
自治体が抱える問題解決のため、ふるさと納税の寄付金の「使い道」をより具体的にプロジェクト化し、そのプロジェクトに共感した方から寄付を募る仕組みです。

GCFはこちら

【受託事業者 / お問い合わせ先】
一般社団法人けやき共創パートナーズ　（担当：原田）
埼玉県熊谷市筑波3-202 ティアラ21　4階
☎048-528-0101　Email：info@kkp.or.jp
WEB：https://kkp.or.jp

⑼　Webコミュニティ等の取組について
・市民共創型３DGISプラットフォーム（まちづくり用副読本作成）
別添資料

【準備中】1月26日案
〇本体は令和5年11月18日データ活用部会において公表済の資料を合成編集
〇令和6年1月26日に参考資料として行政関係者向け補遺を追加。

（熊谷スマートシティ版）
市民参加型WebGISの活用の手引き

令和6年1月26日版
熊谷市政策調査課

【目次】

（注）以下、「地図系データ」は、緯度・経度等の位置情報を持ち、地理空間情報システム（GIS）上で重ね合わせ等の加工が可能なデータを指す、熊谷市内でデータ活用まちづくりの説明に用いる略語。

【１】熊谷市がWebGISを通じた市民のまちづくり参画に取り組む理由

【２】地図系データを活用した市役所のまちづくりの方向性

【３】熊谷市が提供する地図系データの活用ツール
（※）WebGIS（リアース）による市民参加型（双方向）の取り組みを想定。

【４】（参考）熊谷市データ活用まちづくりにおける地図系データの取扱い（案）

【５】（参考）データ活用まちづくりのためのデータ特性の把握について

【６】（仮）「市民共創型３DGIS（三次元地理情報）プラットフォーム」の取組について

【１】熊谷市がWebGISを通じた市民のまちづくり参画に取り組む理由

（行政が情報を提供するだけでなく、市民がGISを用いて情報を発信できるまちへ）

（１）技術と社会の変化

〇双方向の情報交換が時間や距離に縛られず双方向で可能に。
（皆で一か所に集まらなくても意見交換が可能。）

〇取り扱える情報も文章だけでなく、二次元、三次元的な図や画像に。
（まちの構造や提案の内容を分かりやすく可視化することが可能。）

（２）まちづくりにおいて何が変わるか

①当面の手段

以下のメリットを市民に体験していただく機会の提供。

・発信や提案が容易に。
・二次元、三次元的に加工された図や画像を用いた表現が容易に。

②今後目指す方向性

・仮のアイデアや仮の計画の共有・修正のスピードの向上。

・「自分なりの快適さや楽しさ」を見つけたい市内・市外の方とかみあったまちづくりを誘発・促進するツールの運用。

・「住み続けたい」「住んでみたい」熊谷市の実現。

【２】地図系データを活用した市役所のまちづくりの方向性

（注）「地図系データ」は、緯度・経度等の位置情報を持ち、地理空間情報システム（GIS）上で重ね合わせ等の加工が可能なデータを指す、、熊谷市内でデータ活用まちづくりの説明に用いる略語。

（１）基本的な考え方

「仮のアイデアや仮の計画の共有・修正のスピードの向上」を目指すため、まずは市民がデータの重ね合わせ等を体験することのできるWebGISについて「市民に体験していただく機会の提供」に努め、「発信や提案」「二次元、三次元的に加工された図や画像を用いた表現」が容易になっていることを実感していただく。

（２）市民共創に向けた段取りとテーマの共有体験

共創への第一歩として、上記WebGISを活用した体験会については、準備の段取りを設定し、WebGISを用いて表現したい内容について事前に公民の意見交換を実施。

【３】熊谷市が提供する地図系データの活用ツール

（※）WebGIS（リアース）による市民参加型（双方向）の取り組みを想定。

（１）熊谷スマートシティにおける「コモンデータ」の考え方とWebGIS（リアース）による市民参加型の取り組み

【データ全体の方針】市役所の保有するデータを順次市民に開放するオープンデータのみでなく、市民・民間団体と共有・共創するデータを含めた「コモンデータ」の充実を図る。

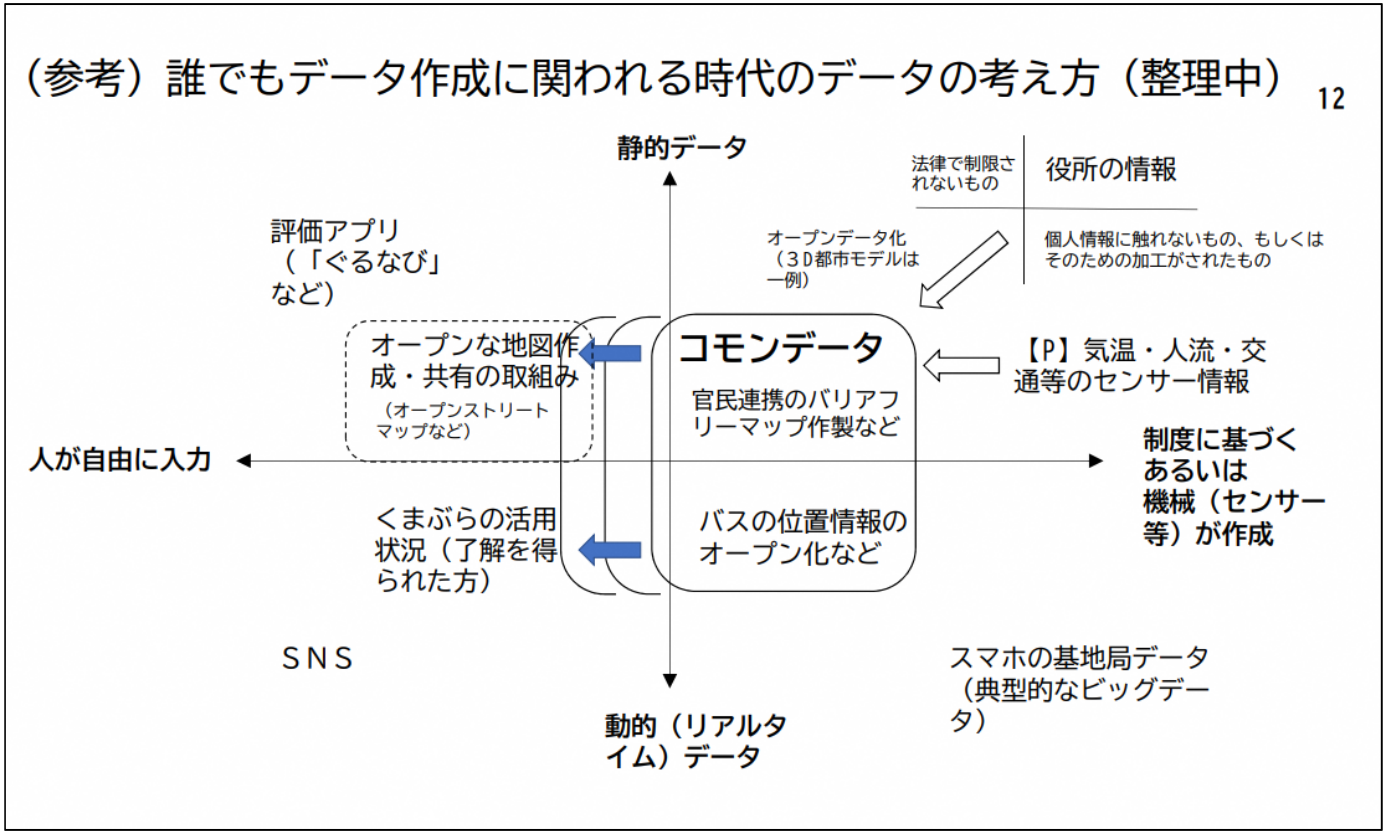


【WebGIS（リアース）導入の考え方】

・より多くの市民にWeb上で各種の地図系データを重ね合わせる体験を提供することに適している。

・都市計画ＧＩＳの標準となった３Ｄ都市モデルデータ形式の取り扱いが容易。

（２）熊谷スマートシティにおける「コモンデータ」のイメージ



（出典）令和４年８月１７日 Web開催 熊谷スマートシティ推進協議会 データ活用部会 （R４年度第一回）

（３）熊谷市の３D都市モデルと市民作成データの重ね合わせイメージ

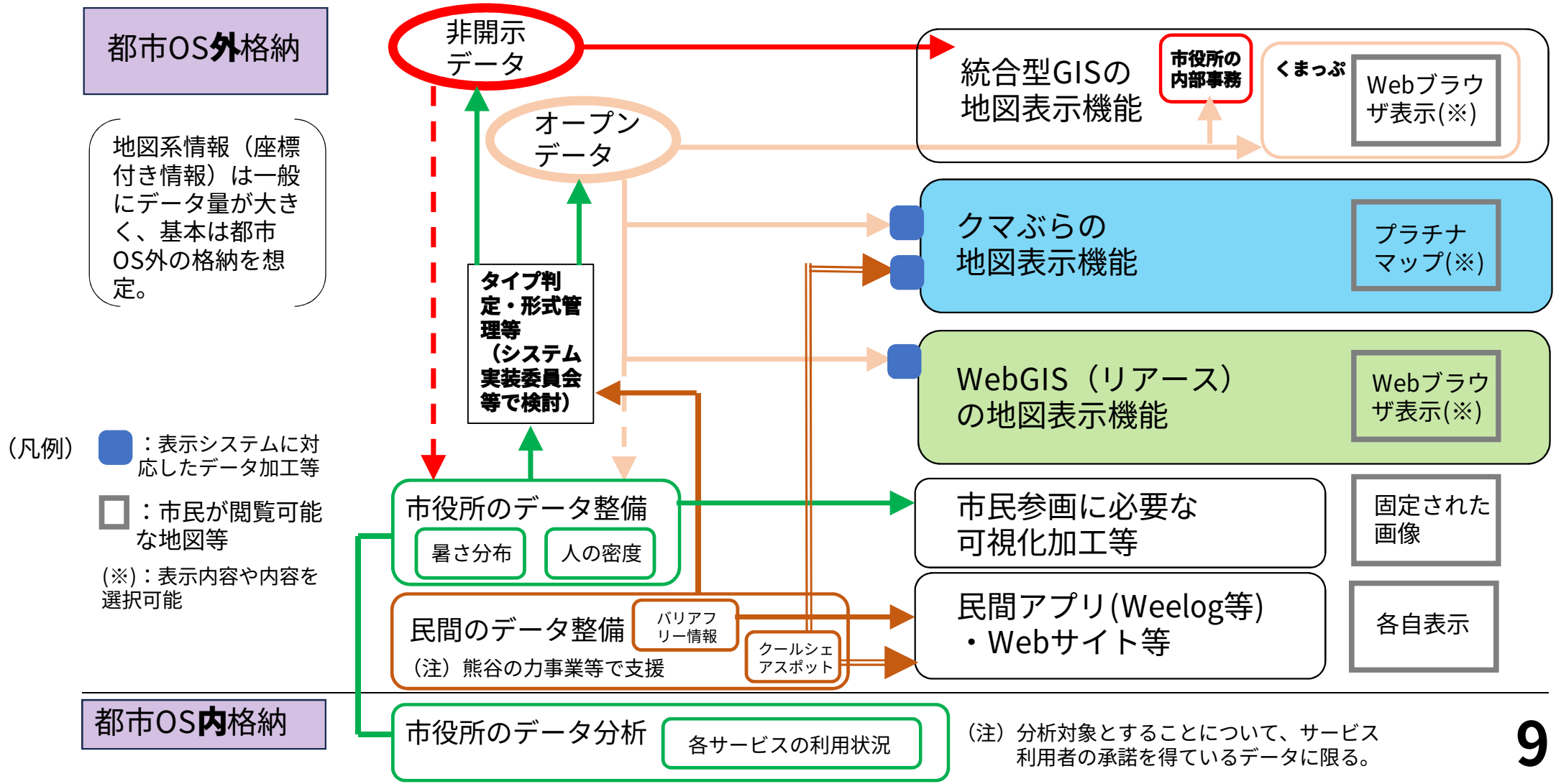


（出典）共に令和４年８月１７日 Web開催 熊谷スマートシティ推進協議会 データ活用部会（R４年度第一回）



令和５年１１月１３日

【４】（参考）熊谷市データ活用まちづくりにおける地図系データの取扱い（案）



（注）分析対象とすることについて、サービス利用者の承諾を得ているデータに限る。

【５】（参考）データ活用まちづくりのためのデータ特性の把握について（案）

令和５年１１月１３日

（目次案）

【１】基礎情報①　（デジタル推進課で確認）

（１）当面の目標とする**データの用途**

（２）当該用途での**活用予定・活用実績**

（３）当該データの**オープン化の可否**

（４）現時点での**データのフォーマット等**（オープンデータと庁内データで異なる場合はそれぞれについて）

【２】基礎情報②

（５）**成果の考え方**　【Aコース】（デジタル推進課とりまとめ）
【Bコース】（デジタル推進課、スマートシティ班、関係課で協議）

【３】応用情報　（システム実装委員会（スマートシティ戦略部会）で確認）

（６）分析・可視化等の**ノウハウの市役所への蓄積**の考え方

（７）データの**更新や拡充の想定**

（８）**目的とする事業での活用方策・活用促進方策**のアイデア等

（９）**目的とする事業以外での活用方策・活用促進方策**のアイデア等

データ活用まちづくりのためのデータ特性の把握について（案）【１／３】

～まちづくりに関わる各種施策（注１）への活用などの目的があって取得あるいは作成されるデータ（注２）に関して整理しておくべき内容（案）～
（注１）まちなか再生のウォーカブル施策以外にも、暑さ対策スマートパッケージ、公共交通・自転車利用促進施策などが該当。
（注２）気象シミュレーション結果や、人流分析等のデータが該当。

【１】基礎情報①　（デジタル推進課とりまとめ）

（１）当面の目標とする**データの用途**

（２）当該用途での**活用予定・活用実績**

（３）当該データの**オープン化の可否**

・「可」の場合はオープン化の（予定）時期、オープンデータの格納（予定）場所
・「否」の場合はその理由。

（※）追加の加工等によりオープン化できる可能性がある場合は何がネックになっているのか。

（４）現時点での**データのフォーマット等**（オープンデータと庁内データで異なる場合はそれぞれについて）

・適用されたフォーマットやデータ作成ガイドラインのバージョン・策定時期を記載。
・上記のバージョンアップの見込み等（設定主体が予定等と公表している内容があれば。）
・地図系情報について、外の団体のガイドラインがないデータを作成する場合は座標系などの活用に必要な事項を記載。
・スマートシティ及び公民連携まちづくりの取り組みにおいて公開可能な地図系（地理空間）データが作成される場合には、WebGIS「リアース」で取り扱えるデータ形式の整備を原則とする。

データ活用まちづくりのためのデータ特性の把握について（案）【２／３】

～まちづくりに関わる各種施策（注１）への活用などの目的があって取得あるいは作成されるデータ（注２）に関して整理しておくべき内容（案）～
（注１）まちなか再生のウォーカブル施策以外にも、暑さ対策スマートパッケージ、公共交通・自転車利用促進施策などが該当。
（注２）気象シミュレーション結果や、人流分析等のデータが該当。

【２】基礎情報②

（５）**<u>成果の考え方</u>**

（※）内容は「データ活用まちづくり」のサンプルとしてデータ活用部会（熊谷スマートシティ推進協議会）、まちなか・まちづくりプロジェクトチーム等に共有を想定。

【Aコース】（デジタル推進課とりまとめ）
・あれば当該データや分析作業自体の成果指標
・未設定の場合は指標として検討される見込みの項目など

【Bコース】（デジタル推進課、スマートシティ班、関係課で協議）
・もしくは目的とする事業等で設定されている成果指標
・設定困難な場合は当該データの活用によって目的とする事業等の効果・効率その他の価値（住民参画等）が向上するロジック。

データ活用まちづくりのためのデータ特性の把握について（案）【３／３】

～まちづくりに関わる各種施策（注１）への活用などの目的があって取得あるいは作成されるデータ（注２）に関して整理しておくべき内容（案）～
（注１）まちなか再生のウォーカブル施策以外にも、暑さ対策スマートパッケージ、公共交通・自転車利用促進施策などが該当。
（注２）気象シミュレーション結果や、人流分析等のデータが該当。

【３】応用情報　（システム実装委員会（スマートシティ戦略部会）で協議）

（６）分析・可視化等の**ノウハウの市役所への蓄積**の考え方
・デジタル推進課、スマートシティ班、国の研修等でノウハウ習得が困難な場合は、操作マニュアルの確保等の考え方等を記載

（７）データの**更新や拡充の想定**
・更新が想定される場合の更新頻度（国の調査・法定調査の周期等に律される場合はその旨付記）
・更新費用（費用面から現時点では更新の予定がない、あるいは未定の場合も概算を記入）
・ 更新が想定される場合の旧データの蓄積・保存・オープン化の範囲の限定などの考え方

（８）**目的とする事業での活用方策・活用促進方策**のアイデア等

（９）**目的とする事業以外での活用方策・活用促進方策**のアイデア等

【6】(仮)「市民共創型３ＤＧＩＳ(三次元地理情報)プラットフォーム」の取組について(1)

◆（仮）「市民共創型３DGIS（三次元地理情報）プラットフォーム」の取組

以下を総合的に市民に提供することで、「発信や提案」「二次元、三次元的に加工された図や画像を用いた表現」が容易になっていることの普及を図ると共に、実践を促進します。

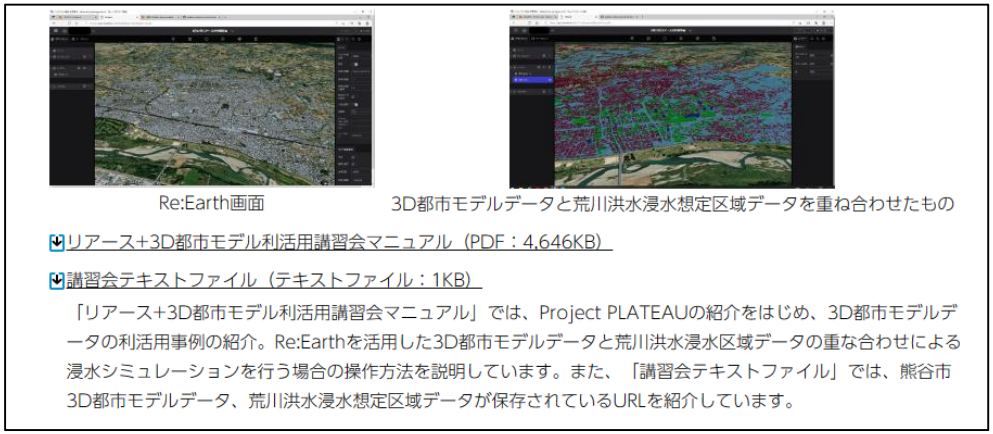
（1）レベル・関心に応じたガイド・テキストの公開

①基礎講座資料・動画の公開



（出典）
https://www.city.kumagaya.lg.jp/smartcity/plateau/3dws_kiso.html
（参考）トップページからのリンクのたどり方
1.トップページ
2.熊谷スマートシティ
3.3D都市モデルオープンデータ化プロジェクト「PLATEAU（プラトー）」
4.3D都市モデル市民ワークショップ（基礎講座）

②市役所内での職員を講師とした研修資料の公開

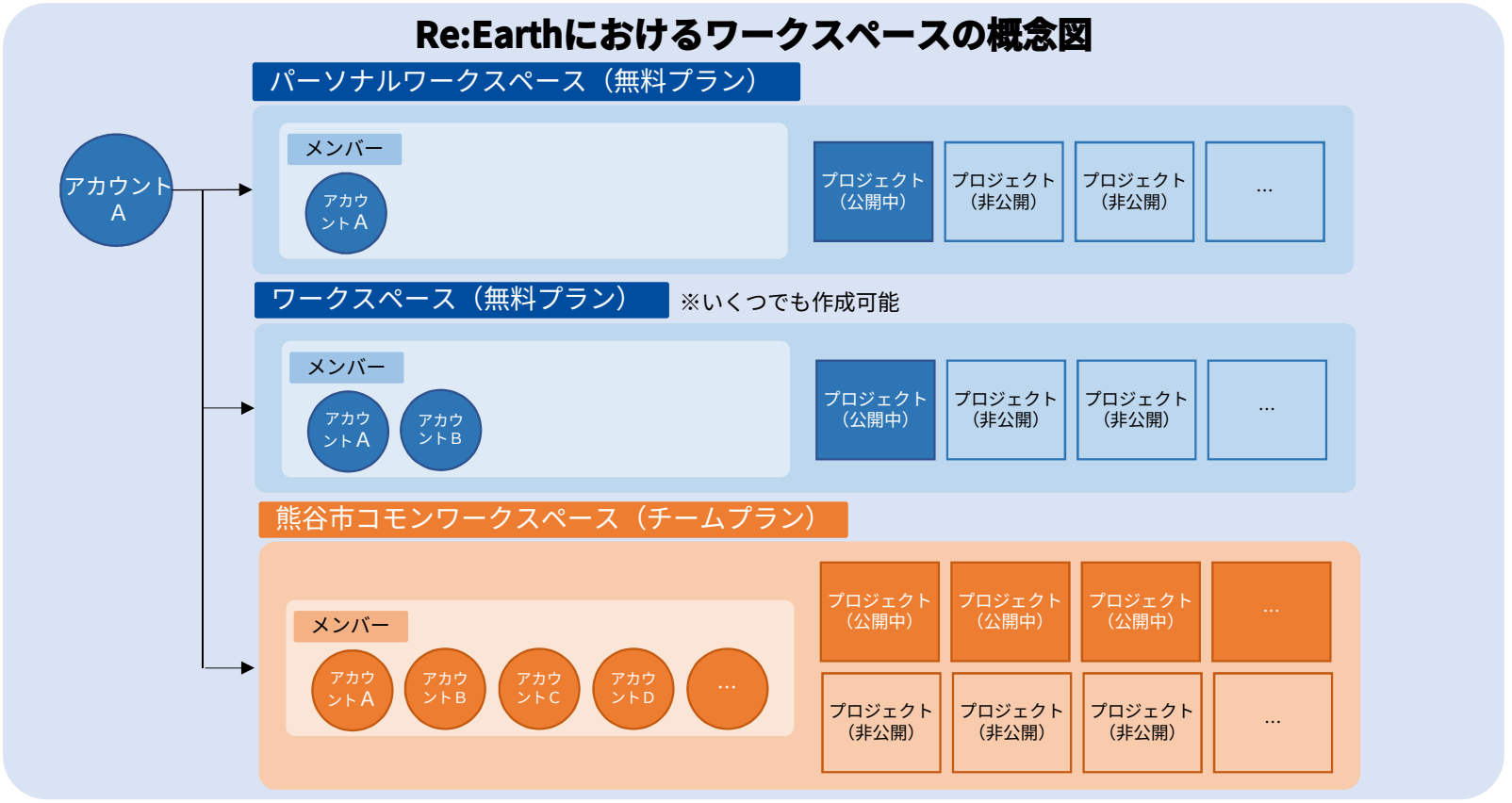


（出典）
https://www.city.kumagaya.lg.jp/smartcity/plateau/3dsyokuinkosyu.html
（参考）トップページからのリンクのたどり方
1.トップページ
2.熊谷スマートシティ
3.3D都市モデルオープンデータ化プロジェクト「PLATEAU（プラトー）」
4.3D都市モデルを活用した市職員向け講習会

【6】(仮)「市民共創型３ＤＧＩＳ(三次元地理情報)プラットフォーム」の取組について(2)

（２）Web上で自由に使える作業の場（コモンワークスペース）の提供【準備中】

市役所には氏名とメールアドレスを登録いただく会員制を想定。（無償）
（他のメンバーのプロジェクトのデータを無断で加工しない等の会員規約に同意いただくことを想定。）



（注１）
Re:Earth（リアース）にはワークスペースと呼ばれる作業空間があり、プロジェクト（地図）はそれぞれワークスペース内に作成することとなります。

（注２）
ワークスペースは、そのメンバーとなることでプロジェクトの参照や編集が可能となります。

【6】(仮)「市民共創型３ＤＧＩＳ(三次元地理情報)プラットフォーム」の取組について(3)

・コモンワークスペースの設置目的について

コモンワークスペースは会員となった市民に以下のメリットを提供し、「発信や提案」「二次元、三次元的に加工された図や画像を用いた表現」が容易になっていることを実感いただくと共に、公民連携により「仮のアイデアや仮の計画の共有・修正のスピードの向上」などが図られることを目的として熊谷市役所がWeb上でリアースの共有ワークスペースを提供するものです 。

〇Web上に複数の地図が公表可能

・リアースについて、提供元のユーカリヤ社は個人アカウントでの無償体験を提供していますが、その場合、公表できる地図は１件のみとなります。

・コモンワークスペースを利用いただくことにより、複数の地図を比較しながらの議論等も容易になります。

〇他のコモンスペース参加者との連携が容易

・参加者は、他のメンバーのプロジェクトのデータを無断で加工しない等の会員規約に同意いただいています。逆に、合意があれば、共同で地図の加工に当たっていただけます。

・匿名でも活動することは可能ですが、氏名・メールアドレスを市役所に登録いただき、規約に従っていただけない場合は退会する措置を取りますので、安心して活動していただくことが可能です。

・参加者同士のコミュニティとしては、Discordにおいて、招待制のサーバーを設置することを検討中です。

【6】(仮)「市民共創型３ＤＧＩＳ(三次元地理情報)プラットフォーム」の取組について(4)

（３）市役所の各種取組で作成されたデータの利用しやすい形での提供【準備中】

- **スマートシティやまちづくりの取り組みに際して作成されたデータ（現時点では検討用に作成された二次元データなどを想定）について、幅広い活用を促進すべく整理を行う予定。**

- **その一環として、熊谷市役所のスマートシティ及び公民連携まちづくりの取り組みにおいて地図系データが作成される場合には、市民参加型WebGISとして利用する想定の「リアース」で取り扱えるデータ形式の整備を原則とする予定。（WebGIS側での読み取りを可能とするプラグイン開発も同等の対応とみなす予定。）**

（４）市民向け講習会の提供・関係行事等の情報提供

- **令和５年度は大学生、社会人向け基礎講座の他、防災、まちづくり、景観・環境をテーマに体験会を開催（一部は予定）。**

- **令和６年度は社会人向け防災テーマの体験会、高校生向けまちづくりテーマの体験会を検討中。（民間団体との研究会等についても検討中）**

- **その他、リアースのベンダーの開催する講習会、他自治体での取組事例の紹介、国の３D都市モデル関係者等が開催する各種行事の情報等を提供予定。**